とやま

特256
278

昭和十五年版

富山商工會議所

始

特256
278

題言

一、本書題して「とやま」と云ふ、主として富山市に於ける商工業の案内に重きを措いたのは、專ら當業者の利便に供せんが爲めである

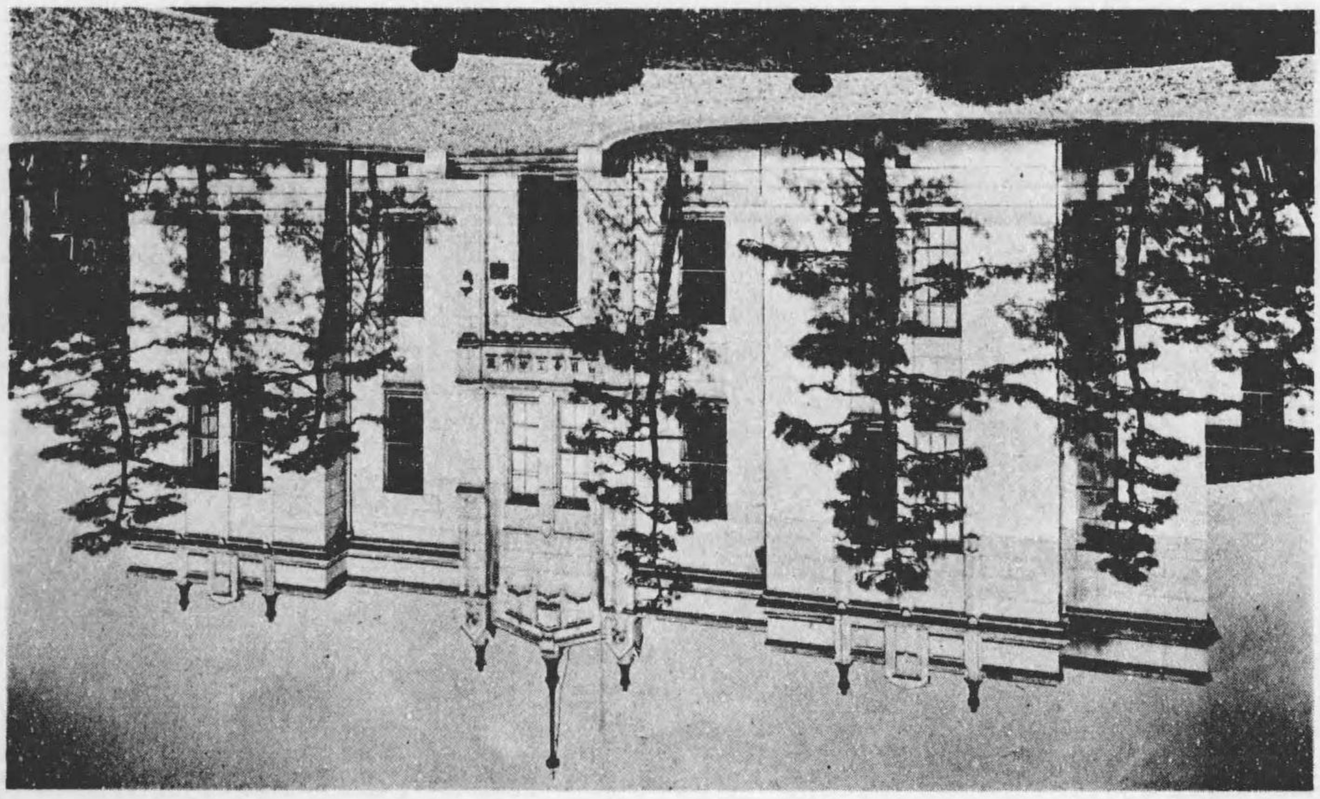
一、而かも富山市には商工業に關する事項の外に紹介すべきことがある、之れを一括して雜俎となし、更に名所舊蹟及童謠民謠、みやげ品等を附記することゝした

一、本書の記事は、力めて最新と精確を期したが所務匆忙の際極めて短日時に編纂したので遺漏あるを免かれない、又防諜上統計的數字を省略したものが尠くない、豫じめ讀者の諒恕を請ふ

昭和十五年十二月

編者識

昭和十六年 富山市



所議會工商山富

とやま目次

市勢……一
概説、沿革、面積、戸口、氣象
都市計畫……五
東岩瀬港……六
富岩運河……八
工業……一〇
概説、生産額、工産物、工場、主要物産、水力電氣
商業……一二
概説、會議所、商工奬勵館、銀行、會社、市場、商工團體、職業別戸口、物價賃金
金融……二一
概説、銀行、手形交換、貯金爲替、信用組合、信託會社、無盡會社、質屋

交通……三四
概說、空路、道路、鐵道、電車、自動車、諸車
通信……三七
概說、郵便、電信、電話、保險、年金、放送
雜組……三九
市政、議員、教育、新聞、社寺、社會、警備、衛生、水道、電燈、瓦斯、
法曹、興行場、旅人宿、料理店、藝妓
名勝舊蹟其の他……四五
童謠と民謠、みやげ品……五七
附錄……六一
官公衙諸團體等一覽

とやま市勢

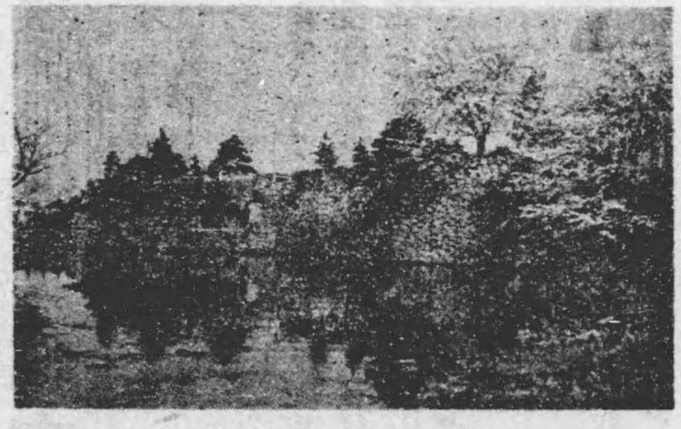
概說

遠く太刀の連峰を負ひ、近く神通の長流を帶ぶる富山市は、昔時前田氏の城下であつて、現今富山縣の首府である。其の位置は越中國の中央より稍や北方に當り、東經一三七度一二分、北緯三六度四二分に在つて、其の東南は上新川郡に隣り、西北は婦負郡に接し、神通川は市の西北方を環り東岩瀨港に至つて富山灣に注いでゐる。

【沿革】 富山市は古へ藤居山と云ひ、其の庄を藤居庄、其の邑を藤井村と稱した。傳うる所では村内に眞言宗の一寺あつて藤居山富山寺（現今の古鐵冶町富山寺）と云つたが、其の寺號を取つて富山と名づけたのであると。又富山とは田地方の別名で、往昔より西田地方を富山とも號し、東西田地方に各神明社が

あつて、富山の土地神であると云ふことだが、共に確的な徴證を認められない。

一説には富山と云ふ地名は既に吉野朝時代からあつたものとも傳へられる富山城は天文元年（四〇九年前）越中の土豪水野越前守勝重の經始に成り、同十四年神保越中守光氏富山城に入り、威を新川、婦負の兩郡に振ひ、永祿元年（三八三年前）以後上杉謙信屢々富山城を攻め竟に之れを陷れ、天正六年（三六三年前）織田信長の將齋藤新五富山城



富山城址

を取り、同七年織田信長、佐々成政を越中の守護職として富山城に移らしめたが、同十五年豊臣秀吉成政を肥後國に封し、其の所領新川郡は、假に前田利家に管せしめ、文祿四年（三四六年前）之を益封す、是に於て越中一圓全く前田氏の領有に歸した。即ち利家は加越能百萬石の藩祖である。慶長二年（三四四年前）其の世子利長守山城より富山城に遷り、同十年封を弟利常に讓つて高岡城に轉じ、寛永十七年（三〇一年前）利常婦負、新川の采地十萬石を割き之を次子利次に與へ分封した利

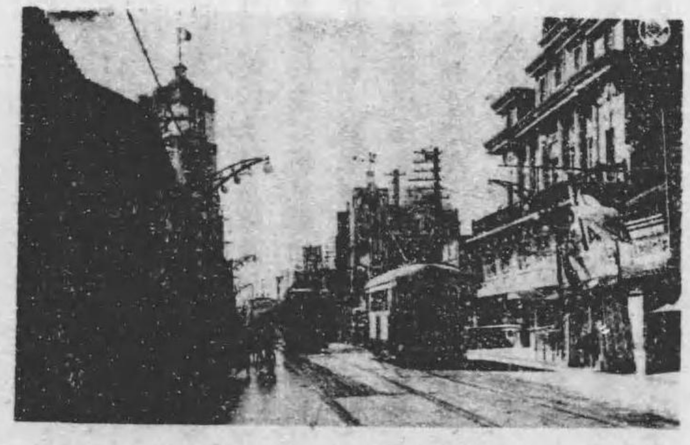
次は即ち富山の藩祖である。

爾來歴代十三世正甫、利興、利隆、利幸、利與、利久、利謙、利幹、利保、利友、利聲、利同に迨び、二百三十年を經て明治四年の廢藩置縣となつた。當時市は富山縣に屬したが、同年更に廢縣となつて新川縣を魚津町に置かれ、同六年縣廳を舊富山城内に移轉せられたが、同九年新川縣を廢して石川縣に併せ、其の支廳を富山に置かれ、同十六年石川縣を割いて再び富山縣を置き縣廳を富山に設置せられ、市も亦再び其の所管となつた。此間屢々區劃に變更があり、更に上新川郡及び婦負郡の一部に屬して戸長役場の所管となり、同二十二年富山附近の上新川郡九箇村並に婦負郡の二箇村を併せ市制を施行せられて富山市と稱し、市役所を總曲輪に設けて全市を管轄し、爾來同三十四年、同四十二年、同四十四年及大正六年、同九年、同十五年の六回に渉り附近の接續村落を併せて市區を擴張し、越えて昭和十年新興工業地帶である上新川郡奥田村を編入、次いで昭和十二年上新川郡山室村の一部を編入し、更に近く昭和十五年九月には紀元二千六百年記念として東岩瀬町、新庄町を始め島村、針原村、濱黒崎村、大廣田村、廣田村、豊田村、神明村の九箇町村八十四部落に亘る大地域を編入して區の大擴張を行ひ、こゝに大富山の建設を實現した。尚ほ之より先き大正十三年には都市計畫法の指定あり、昭和十二年都市計畫事業の一部である舊神通川廢川地埋立地の區畫整理を行ふ等、以て今日の市勢を見るに至つたのである。

【面積】　富山市は從來百四十二箇町から成り、面積二二・二五平方粁、周圍三九・七〇粁で廣袤は東西八・九二粁、南北五・九〇粁であつたが、前項述べたる區域の大擴張により町數二百二十六箇町となり、面積は六九・六五平方粁と三倍以上に膨脹し廣袤亦東西一一・六五粁、南北一一・八粁となつた

【戸口】　富山市に於ける戸口は市勢の進展に伴ひ逐年增加の趨勢にあり、昭和十四年末現在戸數二萬百五十四戸人口男五萬一千九百四十二人、女四萬九千九百四十七人、計十萬一千八百八十九人であつたが、區域擴張の同十五年九月一日現在では二萬四千六百六十四戸・人口十二萬七千八百九十一人に增加した。

【氣象】　氣候は概して溫和、花は四月に開き稻は十月に實る。雨水の多きは秋冬の季で、梅雨の節之に亞ぎ、降雪は數箇月に及ぶことあれど、降霜は數十日を出ない、只



富山市街の一部

だ春夏の交に於て時として南風吹き荒みて砂塵を捲き起すことがある。昭和十四年中の氣溫は最高攝氏三三度八、最低零下九度八、平均一三度である

都市計畫

富山市に都市計畫法の施行せられたのは大正十三年六月で、計畫區域は同十五年四月內閣の認可あり、同年十月市街地建築物法を適用せられたが、其の都市計畫區域は當時の富山市外五箇町村即ち婦負郡神明村、上新川郡堀川町の一部、山室村の一部、新庄町、奥田村を抱擁せる總面積一一、七八六、二一九坪であつたが、昭和三年三月上新川郡、東岩瀨町及大廣田、豊田村、廣田村の一部此の面積一六、〇六一、〇七〇坪が追加擴張せられ、同十一年四月には第二次追加擴張として婦負郡四方町、倉恒村、八幡村、草島村、寒江村、百塚村、長岡村、西吳羽村の八箇町村此面積二五、〇七三、一五〇坪が編入せられ、更に最近即ち同十五年九月富山市の區域擴張と同時に其の新編入地中未だ都計區域に編入されてゐなかつた廣田村の殘部、島村、針原村、濱黑崎村及堀川町の殘部、山室村此の面積五七、四五八、九〇八坪が第三次追加擴張となり、結局現在の富山市の都市計畫區域は行政區域擴張後の富山市の全部及前記婦負郡の八箇町村、上新川郡の堀川町、山室村を抱擁する總面積一一〇、三七九、

三四七坪に上るものである。而して本縣の重大懸案として多年論議討究された、富山市中央部を貫通し三十餘萬坪の彪大なる面積を有する元神通廢川敷地處分は富山都市計畫上に緊密なる干繫あるに鑑み、將來産業都市としての發展を期すべき方途たる商工業地造成の土地區劃整理、都市計畫街路の一部新造、公園敷地の構成、富岩運河開設の富山都市都畫並に事業の決定を見、之が第一期事業は昭和三年度より同九年度に至る七箇年繼續、事業費總額參百六拾萬圓を以て其の財源を區劃整理の土地賣却代金及富山市よりの寄附金を以てする財政計劃の下に縣の手に依り着手し、即ち昭和九年十月を以て竣工を告げ、引續き第二期事業計畫が進められて居るが、此の埋立地内には縣廳を始め昭和會館、放送局、武德殿、小學校、警察署、電氣ビル、興銀支店、各新聞社等の宏壯な建物が偉觀を呈してゐる。

東岩瀬港

前叙富山市の市勢に關聯して東岩瀬港に就き一言するの要がある、本港は富山灣の中央神通川の河口に位する富山市唯一の海門にして、市中より二里の坦々たる舗裝路によつて一直線に結ばれ、省線鐵道及岸壁に臨海線を有する私設鐵道の外運河の通ずるありて唇齒輔車の關係にある。

本港は往時帆船時代日本海の要港として繁榮を極め、又神通川の舟運に依つて富山市との間に物資の往復盛んなものあつたが、時勢の變遷は汽船海運の時代となり、殊に秋冬の候波浪は土砂を壓して河口を閉塞し小船の出入にも不便を來すこと尠からず、從つて出入貨物漸次減少し港勢頓に衰退を見るに至つた。然るに偶々政府に於て神通川改修工事の行はるゝに際會したので、之を機會に本港の修築計劃を樹て、即ち大正七年以來第一期、第二期に渉り工費百參拾六萬餘圓を投じて、岩壁、防波堤護岸、上屋、燈台、閘門等總ゆる近代的港灣設備を整へ、一面富岩鐵道會社では臨港鐵道を敷設して同港出入貨物の輸送に便した、斯て同港の出入貨物は逐年著增の趨勢を辿り、昭和十三年には入港船舶百七十六隻、此の總噸數約二十四萬三千噸、出入貨物三十五萬七千七百噸、此の價格八百九拾四萬八千餘圓であつたのが、十四年には入港船舶二百九十隻、此の總噸數約四十四萬二千噸に增加し、出入貨物亦四十一萬一千六百餘噸、此の價格千參百五拾九萬四千餘圓に上つて居るが、更に第三期擴築工事として昭和十四年度から六箇年繼續事業として總工費五十萬圓を投じ大工業港としての擴築工事が進められて居るが、本港の擴築修築は後方地帶に於ける各種重要工業に及ぼす影響甚大であるので其の繰上實施を見るべく、以下述ぶる兩運河と相俟つて大富山港の示現をみるも遠くはあるまい。

富岩運河

由來富山市は豊富且低廉なる電力供給地なるを以て之に備ふるに交通運輸の便を以てせば産業都市としての發展は蓋し期して待つべきものがある。而も一衣帶水の彼岸滿洲國との關係は年と共に緊密を加へ、所謂日本海湖水化時代の現實を見んとしつゝある秋、太平洋沿岸線と日本海沿岸線を結ぶ國鐵高山本線の分岐點たる我富山の重要地位は愈々高まり、一面神通川の河口に連なる東岩瀬港は港灣としての諸施設整備し今や日本海の一良津たるに至つた。富山市と東岩瀬とは相距ること遠からず、加之此の間は一帶の平野にして清水の湧出量多く恒風の關係等より工業地帶として最適とせられ、神通川廢川敷地の整理と相伴ひ兩地を連絡する運河を開鑿するは極めて適切の施設たるに鑑み、即ち富山都市計畫事業として本運河開鑿工事の實施を見たものである。

本運河は東岩瀬港南端より富山高等學校西側を神通川堤防に沿ふて南走し、次いて殆と一直線に奥田を過ぎ廢川地下流に於ける船溜始點に到達する、延長約四千七百五十八米（約二、六一七間）の閘門式運河で始端より下流更に東岩瀬港内連絡航路として七百二十七米突（四〇〇間）を浚渫し、其の掘鑿土砂百三十餘萬立方米（二二〇、〇〇〇立坪）は主として廢川地の埋立に利用し、殘餘は浚渫土砂四萬立方米突と共に東岩瀬港修築

埋立地に運搬投棄したもので、運河の水面及び幅は閘門より上流部が六十米突餘（約三間）下流部は四十二米突餘（約二間）水深平均七尺となつてゐる。此の工事は昭和五年六月起工、同九年十月竣功を告げたが、此の運河沿ひの一帶は工場地帶として發展著しく、日滿アルミニウム工場、日本曹達岩瀬工場を始め日曹人絹パルプ工場日本曹達富山製鋼所、東洋曹達富山工場、日本海電氣火力發電所、富山製作所等

富岩運河

を始め大小幾多の工場が簇々と新設され、附近の本江機械製作所、富山化學工場大正製麻工場等其他既設會社、工場と共に一大工場地帶の現出を見、工業都市としての面目躍如たるものがある、

一面富山縣の五千萬圓港灣計劃の一部として昭和十四年度より三ケ年繼續で東岩瀬臨港工業地帶の造成事業が進められて居る、之は工費約二百八十六萬圓で、港口船溜に接して流れ込む

三左衛門川に沿うて新に運河を開鑿して東岩瀬町の背面に出で約三百十七萬坪の地帶を造成し、之に附隨した陸上交通の整備と、住宅適地の配置などを計劃して約百十五萬坪を整理し、延長約二千五百米の運河を新設するもので、此の沿線には既設工場として日本曹達岩瀬工場、不二越鋼材岩瀬工場があり、新造成地帶亦早くも豫約申込がある狀況で、之が完成の曉、ここにも一大工場地帶を現出し、既設の富岩運河と相俟つて東岩瀬港の背後地たる大富山が名實共に備はる工業大都市に飛躍するであらう。

工　業

概　說　我が富山市には往昔より人口に膾炙する反魂丹がある。富山の賣藥か、賣藥の富山かとは夙に全國に喧傳する所で、是れ實に市に於ける唯一の特產である。而して其他の工業に至つては果して如何の特產あるか、顧うに藩政の時代に在つては未だ機械的工業の見るべきものなかつたが、歷代の藩主に依つて盛んに奬勵を加へられた爲め、手工的工業の見るべきものあり、明治の時代に入つてから嶄然として頭角を現はし且つ時勢の進運は著しく工業の勃興を促がして來た、加ふるに我が地方は天然に於て水利の便を有し豐富且つ低廉なる電力を起す利がある。殊に都市計畫による舊神通川廢川地の埋立、富岩運河の開鑿は蓋し有數の工業地帶と化しある。

【生產額】　工業の一班に就ては、前に概說した通りであるが、既往九年間に於ける富山市の生產額種別を觀ると左記數字の示す如く、工業が第一位を占め次いで農業、水產、畜產、鑛產、林產の順位となり、工業都市としての著しい躍進ぶりを如實に物語つてゐる。尙この中、鑛產額が昭和十二年度に於て急激な增加を見たのは所在の地域が市部に編入された結果に依るものである、十三年に至り激減してゐるのは其の大部が工業に編替されたに因る。

年別	總額	農產	畜產	林產	鑛產	水產	工產
昭和六年	一三、五八九、二三〇円	三二、五八八円	四四、四六九円	四四八円	二五、六六八円	一六三、五九四円	一三、〇四二、四六三円
昭和七年	一二、八一七、一六一	三三八、八八一	四八、三七三	四一三	二六、〇三七	一四八、二三六	一三、二五五、二三二
昭和八年	一三、五七九、五〇八	三九六、四〇三	五七、五二五	五三三	二九、二四九	一七三、〇八六	一二、九二二、七一三
昭和九年	一五、四一二、六〇六	四五七、一七三	六九、九八八	二一五	四二、一六五	一七一、六八九	一四、六七一、三七六
昭和十年	一九、三五九、五七二	六五一、二三九	八三、七一一	一一七	五二、四二五	一七二、三八七	一八、三九九、六九三
昭和十一年	二五、九五四、三七一	六五六、九六三	一〇五、六八四	三五一	二四〇、八九三	一九二、四八六	二四、七五七、九九四
昭和十二年	三〇、八四五、八七〇	七二八、九八八	一〇九、七二七	一、〇一七	一、〇四五、〇八六	四三八、三三一	二八、五三二、七二一
昭和十三年	三六、三三九、七六六	七三三、六八二	一五六、八三七	一、二五二	二九、〇四〇	五〇〇、五一二	三四、九一八、四四三
昭和十四年	七二、二一四、一六四	一、〇二〇、一八五	一四九、八七〇	一、六五六	四四三、六九〇	六九一、四一六	七〇、三〇七、三四七

【工産物】 更に主要産業として生産物の首位を占むる工産物の主なるものを昭和十三、十四の二年間に就て觀ると左の如くである。

種別	昭和十三年	同十四年
金工品	一三、三〇五千円	三七、九四九千円
寶藥	八、〇七八	八、九〇〇
人絹用パルプ	—	七、五三〇
工業用藥品	四、八〇八	四、二八二
洋服外套類	一、二七六	一、五九二
麻綿絲紡績	九一〇	一、三三三
織物	七七一	一、〇八〇
植物油	二六三	八五八
木製品	一五九	七七八
菓子	六九五	七六五
製材	三〇二	六一四
印刷物	三八五	五九三

種別	昭和十三年	同十四年
清酒	五四五千円	五三三千円
紙類	二一一	三二五
ミシン裁縫品	—	二三六
清涼飲料水	一四七	二三五
醬油	二一三	二一七
瓦斯	一五三	二〇六
硝子製品	六九	二〇四
漬物	二五〇	一八三
製綿	一〇九	一五三
漆器	一三八	一三三
味噌	九八	一二〇
畳及畳床	一三一	一一八

種類		
麺類	一四三	一二六
石工品	八九	一一一
豆腐類	八九	九四
飴	—	八八
寫眞	—	八四
昆布製品	五五	七四
乳製品及罐詰	七五	七三
扇額屏風襖	—	七二
麹	—	六八
籐竹製品	四八	六五
氷	—	五九
護謨製品	—	五七
晒及染物	—	四七
屋根板	—	四〇
皮革製品	五六	三六
セメント製品	—	三六
藁製品	二七	三三
糸編物組物	—	三三
造花	三一	三〇
蠟燭	—	二一
其ノ他雜工品	一、三三六	一四六
計	三四、九一八	七〇、三〇七

【工場】 工業の發達に伴ひ近時各種工場の增加著しく、工場法の適用を受けるもののみでも大小百餘を算するが、其のうち主なるもの及び特色あるもの其の他近郊の主なるものを摘記すれば左の通りである。

名稱	製品	所在地	代表者
不二越鋼材工業株式會社	鋼材工具	石金	井村荒喜
富山化學工業株式會社	硫黄二流化炭素	下奥井	中井敏雄
株式會社富山縣織物模範工場	輸出絹織物	大泉町	碓井榮太郎
大正製麻株式會社富山工場	麻糸・麻織物	奥井	和田清太郎
第一ラミー紡績株式會社	ラミー紡績	清水	小澤安太郎
日曹人絹パルプ株式會社富山工場	パルプ	下新	中村一元
日本曹達株式會社富山製鋼所	製鋼	同	井上太郎
株式會社本江機械製作所	機械	下奥井	本江政治郎
報國砂鐵製煉株式會社富山工場	製鋼	寺町	山崎信吉
株式會社百谷鐵工所	鐵工	清水	百谷常吉
株式會社富山製作所	製機具	湊町	林銀藏
株式會社碓井機械製作所	機械	向新庄	碓井要治
日本曹達株式會社富山工場	金屬曹達	石金	大西周一
佐藤工業株式會社鐵工部	鐵工	稲荷元町	杉野茂
合資會社金山電化工業所	製燐	稲荷	金山亀之助

河邊鐵工所	鐵工	下金屋町	高畠彌吉
株式會社廣貫堂	製藥	梅澤町	金尾義信
株式會社師天堂	同	荒町	廣瀨重造
富山藥劑株式會社	同	總曲輪	吉本理八郎
株式會社富山精壽堂	同	山王町	三井清平
富山藥業株式會社	同	星井町	中島重馬
富製藥株式會社	同	山王町	戸田秀朝
東洋曹達株式會社富山工場	同	下奥井	中井敏雄
日本海電氣株式會社瓦斯製造所	シアン化合物	稲荷	山田昌作
富山明光堂試力印刷製罐工場	瓦斯	常盤町	武内宗八
株式會社稲荷機業場	賣藥容器	稲荷町	高田虎太郎
扇原硝子製造所	絹織物	新富町	扇原亀吉
山口洋服裁縫工場	硝子製品	東田地方	山口清一
日本海冷藏株式會社	洋服・裁縫加工	赤江町	石黒傳六
株式會社日本水産富山冷凍工場	製氷	神通町	青山庄作
	同		

日滿アルミニウム株式會社富山工場　アルミニウム　東岩瀬町　森谷一郎
日本曹達株式會社岩瀬工場　金屬曹達　同　井上太郎
東洋曹達株式會社岩瀬工場　金屬曹達　東岩瀬町　磯村昇
不二越鋼材工業株式會社第二工場　鋼材工具　同　井村荒喜
第一理化學工業株式會社　機械工業　新庄町　溝口伊三

郊外

日清紡績株式會社富山工場　綿糸布　堀川町　松山治亮
日滿亞麻株式會社富山工場　麻糸紡績　同　森達平
三和絹織物株式會社　人絹織物　同　常田健次郎
吳羽紡績株式會社吳羽工場　綿糸布　吳羽村　波多野定一
日產化學工業株式會社富山工場　硫酸アンモニア　速星村　織田研一
天滿織物株式會社笹津工場　液化瓦斯　大澤野村　山本直孝
日本カーボン株式會社富山工場　綿糸紡績　同　小松陽之助
　　カーボン　同

【主要物產】 富山市及附近に於ける工業の概況は前來叙し來つた如くであるが、茲に主要物產に就て其の梗概を記すと

賣藥――富山賣藥の起源は二代の藩主前田正甫の時代に在り、爾來二百五十年の古い歷史を有し、全國津々浦々其の到らざる處なく、今や遠く海外にも販路を擴張し、實に富山の一大特產たるのみでなく、又富山の一大財源である。即ち其の濫觴は天和三年（二五八年前）備前岡山の醫師万代常閑なるもの富山に來り藩主正甫卿に見えたとき、祖先傳來の秘藥反魂丹を獻じたが、卿其の靈驗あるを悅び、自ら製法を研究し、且つ侍臣に傳習せしめた。元祿三年（二五一年前）卿江戸にあつて一日幕府に參勤したとき、某國主柳營中に於て急に病を發して將に死に瀕せんとした、卿は直ちに印籠中に携へた反魂丹を出して服せしめると病忽ち平癒したので、列座の諸侯皆な其の奇効に驚き、汎く諸國に行商せしむるやう懇請した。卿之を承引し歸國の後松井屋源右衛門に調劑せしめ、八重崎屋源六に行商せしめたにあり、封建時代の當時各藩共に國境を閉ぢ、固く自ら守つて居たに拘らず、獨り富山の賣藥行商人のみは諸國に自由に販賣した。其の販賣方法は全く信用取引で、一年毎に藥品を配置し、翌年に至り前年分の代金を集むるのであつて是れ店頭賣藥と異れる配置賣藥で富山特有の商習慣である、斯くて爾來幾多變遷を經て今日の隆昌を見るに至つたもので、內地及臺灣、朝鮮は勿論遠く滿洲、支那、印度、南洋諸島、亞米利加にまで販路を擴張し、特に國際製藥會社はメキシコに

支店を置き、同地方に販路を開拓しつゝある。十四年度末現在の市内に於ける賣藥營業者は會社、個人を合せ二百九十二人で、之が行商に從事するもの千五百六十人、製劑に從ふ職工は男女合せて六百九十六人を算する。尤も最近經濟新體制に即應する爲富山賣藥三百年の傳統的歷史を一擲し、縣下に於ける會社、個人の全營業者を打つて一丸とする企業合同計劃が進められて居り之が實現の曉は富山賣藥に新紀元を劃することにならう。

絹織物――俗に毛斯倫と稱する輸出向のシフオン、ジョーセット及び內地向の紋織、佛蘭西縮緬、ニノン等で、富山縣織物模範工場の製織に係り、其の金線入は實用新案として登錄せられ他の模擬を許さない。輸出品は印度を始め濠洲、加奈陀、南米、埃及南阿方面、歐洲諸國に販路を有してゐる。またこのほか稻荷機業場の各種絹織物の製織盛んである。

木工品――富山市は立山連嶺及飛驒地方の良材を利用し得る關係上、古くから木材工藝地として知られて居る。即ち指物では和洋家具、唐木細工、簞笥、彫刻物、小箱等、建具では障子、襖、欄間等は古來の特產で製品の優良、價格の低廉は製作の堅牢と相俟て好評を博して居り、分けても糸鋸を巧みに利用した透彫欄間や木象嵌や其の技術の巧緻に於て有名である。就中木象嵌は本邦木工藝品中の一異彩で、巧妙な手法、撰

木の味、天然木色に依る意匠圖の見事さは他の追隨を許さない。

漆器――其の濫觴は今を距る二百六十餘年前の寬文年間に在り、鞘塗、輪島塗等、殊に靑貝細工は技術精巧を極め、何づれも富山漆器の名聲を博す、近くは彫刻塗現はれ時代の進歩に伴ひ斯業の發展著しく商工展に於ても優秀な地位を占むるに至り、朝鮮、東京、大阪、長野、北海道、九州を始め能登飛驒等に移出するもの多額に上つてゐる。

鋼材工業――時運の趨勢に伴ふ金屬工業の發達は近時著しきものあり、本江機械、日曹製鋼を始め河邊鐵工、佐藤鐵工等の各種精密機械及鋼材、工具の製作は日夜繁激を加へ、就中不二越鋼材工業の高速度鋼、特殊合金鋼等を原料とする螺旋錐金切鋸又其の他各種工具等熱處理工業は從來の輸入品を防遏すると共に時局に對應して高速の發達を遂げ非常な勢ひで製產の增大を見つゝある。また熔接、小工具、農具類の製作工場は市內隨所に見られ將に工業都市の面目を躍如たらしめてゐる。

工業藥品――化學工業藥品としては、富山化學工業、金山電化工業、日本曹達、東洋曹達等の苛性曹達、金屬曹達、靑化曹達、黃血曹達或は黃燐、赤燐、硫黃燐、燐鐵、燐化石灰其他各種藥品の製產は其の躍進目醒しく、特に品質の優秀に於ては外國品を凌駕してゐる。

麻糸紡績――消防用、水道用、鑛山用、船舶

用の各布ホースを始め着尺物、洋服地、蚊張地等大正製麻工場の製産品で特に布ホースは最高水壓に堪え強靱と耐久力に於て名聲あり。樺太、臺灣、滿洲、支那方面にまで販路を有してゐる。また第一ラミー紡績の製品では、歐米の機械的搗打法に據らず化學的處理に據る最新式の特許法に依つて優秀な上布用、洋服地用、瓦斯マントル用の原糸、皮革縫ミシン、馬具、靴縫、漁網用糸等があり、強牽強力及び光澤を損せない特長は世界的記録品として好評を博してゐる。

酒・醤油――其の醸造は二百數十年來連綿たる歴史的由緒を持ち、時に一盛一衰を免れなかつたが、現在では酒醸造戸數九戸、醤油製造戸數六戸で、何づれも各地産品と相並んで市場に雄飛してゐる。

菓子――古來富山市は菓子に名聲あり、蒸菓子、餅菓子、羊羹、落雁、煎餅、其の他掛物等製品の主なるもので、中にも月世界、しほかま、浮城は長き邊りへ献上し又は御買上の光榮を有する名菓である。

其他――如叙主要物産の外に尚ほ名産品として紹介すべきものが尠くない。先づ食料品では神通川名産の加工品で鮭の塩引、はら〳〵（鮭兒）の粕漬、鱒の鮓、鮎の粕漬、鮎の鮓、白燒、鮎鱗、うるか（塩辛）等があり、またすず筍の罐詰、螢烏賊の煮干、烏賊の黒作、風味豊かな各種蒲鉾など何れも富山名物の一つとして賞美されてゐる。更に

他の産品では、藥都としての特異性に應じた硝子製藥品容器を始め錫製品、鍼灸製罐――木製品、紙器、其の他に御殿帳、清涼簾や玩具の獅子頭、富山人形などがある。

【水力電氣】 産業を說き工業を談ずるに方つて特に見遁すことの出來ないのは、我が富山縣に於ける水力電氣である、即ち縣下には小矢部、庄、神通、常願寺、黒部の五大河川を始め幾多の大河川を有しこれに據る水力電氣の寶庫を以て稱せられ、其の既發電力は全國の最高位を占め、豊富なる發電力の三分の一は直ちに縣下工業發達の原動力を成し、他の三分の二は新潟、石川等の近接地を始め遠く大阪、名古屋、東京等に大口供給されてゐるが、これらは日本電力の東京送電線及名古屋、大阪送電線並に昭和電力の大阪送電線に依つて各々需要地に送電されてゐるのである。斯樣に電力の豊富は從つて其の供給料金に於ても極めて低廉なること全國に其の比類を見ない、のみならず由來本縣は勞力の供給地とさへ稱せらるゝ如く工場從業勞力費も比較的低廉である等よりして、これらの好條件に着眼する縣外の資本家が近年著しく增加し、年を逐ふて縣下隨所に大工場の新設を見つゝあり電氣王國の稱を遺憾なく發揮してゐる。而も所謂日本海湖水時代を控へて對岸鮮滿連絡の最短コースにある本縣將來の産業發展は愈々其の需要を激增するの趨勢顯著なるものあり、況んや神通廢川埋立地及接續地を包含する大工場地帶、岩瀬港を連れる富岩運河、北陸線と東海道線を結ぶ高山本線等、彼此相俟つて工業都市としての富山市を中心に、この豊富且つ低廉なる電力消費地として、一大工場地を現出しつゝあるのである。

商業

概說　我が富山市は越中の平野に位すれども、曾て東京にも遠く、大阪にも近からず、東には親不知の難路あり、西には倶利伽羅の峻坂あつて加賀に通じ越後に達するすら、交通運輸の極めて不利不便のものがあつた。隨つて商業の發達著しからず、商事の取引振はず、只だ僅かに市民の需要に應じて物資を供給するに過ぎなかつたのである。而も封建時代に在つてさへ、一足の草鞋、一隻の脚袢以て全國を踏破し櫛風淋雨具さに艱苦辛酸を嘗めて、商事に從事したもの蓋し富山商人の如くはないのである。故に幾たびか水火の災に罹るも毫も屈撓するの色なく、一難を經る毎に一倍の勇を皷し來り克く奮鬪して業に服し、克く勤勉して產を治むることも古來の特性と稱すべきである。而して維新以後に於ては、陸に鐵運の開くるあり、海に汽船の通ずるあり、商賈の往復、物資の集散逐年增加するに隨ひ、商運開け商勢進み、更に銀行の設けあり、會社の起るありて全く其の面目を一新し、啻に內地の商業のみに止まらず進んで海外の取引をも盛んならしむるに至つたのは、固より時勢の進運に伴うて斯業の發展したるに因るとは云へ、抑も亦富山の商人が久しく鍛錬した氣風の與つて大に力ありと云はねばならない。

【會議所】　市內商工業者唯一の代表機關である富山商工會議所は、明治十三年初めて富山商法會議所と稱して創立せられたに起り、同二十年其の組織を變更して富山商工會議所と改稱し、同二十六年四月に至り、曩に公布せられた商業會議所條例に依り富山商業會議所を創立し、爾來法規の改廢に伴ひ數次の變遷を經、昭和三年一月商工會議所法の實施を見るに至り、再び現今の商工會議所と改稱した。議員定數三十名、顧問六名、尙ほ最近經濟新體制に即する爲法規に依る議員顧問の外に學識經驗者中から新に參與、委員を委囑して機能の發揮に努めて居り、事務局には理事以下十數名の職員を置く、昭和十五年一月一日現在の議員選擧權者數は千三百三十九名で、昭和十五年度豫算は參萬貳千八百九拾圓である。

而して初代の會頭は故關野善次郎、二代故山田信昌、三代故田邊貫一、四代故吉田耕三、五代故高桑直助、六代須田藤次郎、七代故出水寬義の諸氏で、現在の金岡又左衛門氏は第八代に當り、昭和四年四月の就職で爾來選を累れる三回、前貴族院議員である、歷代會頭の功績を頌表する爲歷代會頭の肖像額が階段正面の壁間に揭げられてある。副會頭は最初二名であつたのが、明治四十二年一名に變更し更に昭和十三年一名を增員して二名に復活した、此の間相踵いて交迭したが、現任は大間知喜一郎氏一名で一名缺員となつて居る、理事は創立以來交迭五回、現任の富川保太郎氏は昭和十五年十月の就任である。

會議所現今の建物は大正十年八月十五日起工、翌十一年六月竣工を告げたもので總延坪二百八十三坪五二、內本館は木造タイル張の二階建で其の延坪百三十四坪六一、樣式は近世式を加味したゴヂック式を取つたものである、工費は建築費八萬五千圓、其の他の裝飾及設備費約貳萬五千圓を要したが之に對して當時の會頭故田邊貫一氏及新築委員長であつた元特別議員蓮沼安太郎氏から巨額の寄附金があり、其の篤志を記念する爲會議室に肖像が掲げられてある。

【商工奬勵館】 市內產業の指導改善紹介機關たる富山市商工奬勵館は大正四年市立富山物產陳列館として創設され、越えて大正十年道府縣市立商品陳列所規則の發布と共に市條例を改正館名を富山市商品陳列所と改稱、市內重要物產の宣傳紹介と之れが改善發達に努め一面圖案部を設けて意匠圖案の改善指導を圖り併せて縣內の特產品を陳列、更に昭和十二年富山市商工奬勵館と改稱し從來の機構を更新して新たに指導部を設け商工業の指導奬勵方針を一層强化した。尙同館の昭和十四年度に於ける成績は委託品販賣點數一萬七千九百三十九點、其の金額壹萬八百拾參圓、圖案指導件數三百五十四取引斡旋件數百二十六である。

【銀行】 富山市に本店を有する銀行は普通二行、貯蓄一行で、昭和十五年末現在に於ける此の總資本金貳千四百十四萬圓、拂込金壹千五百六拾五萬壹千圓に上り、更に市外又は縣外に本店を有する銀行にして市內に支店を置くもの六行あり、近年商工業の發達に伴ふて金融界の繁忙を來して、も其の

資本の豐かなること地方稀に見る所である。

資本金	拂込資本金	營業所	名稱	代表者
三、〇〇〇千円	一三、一五〇千円	袋町	株式會社十二銀行	中田清兵衛
二、六四〇	二、三七六	一番町	株式社會富山銀行	安田楠雄
五〇〇	一三五	越前町	株式會社富山合同貯蓄銀行	菅野傳右衛門

尙ほ支店銀行としては特殊銀行たる日本勸業、日本興業を始め高岡、中越、金澤貯蓄、不動貯金等がある。

【會社】 事業の消長に伴ふて會社の興廢を見るのは自然の趨勢で、富山市內に於ける會社も亦第一次歐洲大戰當時の好況時代に起つたものが多かつたが、其の後財界の反動を受けて整理されたものも尠くなかつた。然しながら最近の四圍の情勢や支那事變の影響に依つて次第に活況を呈し、昭和十五年末現在に於ける市內の會社數は二百二を算し其の內株式會社百二十六、此の公稱資本金額一億五千三百五拾五萬四千二百五十圓、內拂込金額一億六百拾八萬六千九百參拾七圓、合資會社五十一、此の出資金額百貳萬七千四百圓、合名會社二十二、此の出資金額九拾九萬六千二百五拾圓有限會社三此の資本總額貳拾四萬圓に及んでゐるこゝに資本金貳拾萬圓以上のものを摘記すれば左の通りである。

株式會社

營業種目	資本金	拂込額	營業所	名稱	代表者
無盡	五〇〇千円	三五〇千円	總曲輪	中越無盡株式會社	金岡又左衛門
信託	一、〇〇〇	三〇〇	二番町	北陸信託株式會社	荒井建三
電燈・電力・瓦斯	五〇、〇〇〇	三六、八七五	櫻橋通	日本海電氣株式會社	山田昌作
電力	一八、〇〇〇	一三、五〇〇	同	黑部川電力株式會社	同
同	三、五〇〇	三、一二五	同	立山水力電氣株式會社	同
賣藥製造	五〇〇	一二五	梅澤町	株式會社廣貫堂	金尾義信
藥品・賣藥・雜貨貿易	一、〇〇〇	五〇〇	千石町	國際製藥株式會社	飯倉平兵衛
賣藥製造・清酒釀造	二〇〇	全額	同	丸三興業株式會社	藤井諭喜
麻糸紡績	一、六〇〇	全額	清水	第一ラミー紡績株式會社	小澤安太郎
輸出絹織物	一、〇〇〇	全額	大泉町	株式會社富山縣織物模範工場	碓井榮太郎
鋼材工具	五〇、〇〇〇	三一、二五〇	石金	不二越鋼材工業株式會社	井村荒喜
機械製作	二、〇〇〇	全額	下奥井	株式會社本江機械製作所	本江義忠
同	六五〇	五〇〇	向新庄	株式會社碓井精機製作所	碓井要治

硫黃・化學工業品製造	二、〇〇〇	一、〇〇〇	同	富山化學工業株式會社	中井敏雄
工業原料	五〇〇	二〇〇	新庄	第一理化學工業株式會社	溝口伊三
土地建物經營賣買	二〇〇	五〇	總曲輪	琿春拓業株式會社	石原正太郎
借貸經營地田農事					
鑛石採掘販賣	二、〇〇〇	全額	總曲輪	日本海鑛業株式會社	板倉光治
旅客・貨物運輸	二、六〇〇	全額	牛島	富山電氣鐵道株式會社	佐伯宗義
同	一、六〇〇	四六二	鵜島	越中鐵道株式會社	石原正太郎
同	一、〇〇〇	全額	稻荷	富岩鐵道株式會社	佐伯宗義
同	五五〇	全額	櫻橋通	富南鐵道株式會社	同
運送業	三〇〇	二五五	神通町	富山通運株式會社	廣田傳次郎
同	九三〇	全額	牛島	富山電鐵自動車株式會社	佐伯宗義
同	一、〇〇〇	四〇〇	東岩瀨町	日本海共同運輸株式會社	堀田勝文
船體建造機關ノ製作及修理	三、五〇〇	一、七五〇	同	日本海船渠工業株式會社	山田昌作
建物・同附屬機械器具貸貸 電氣・瓦斯・機械器具	一、〇〇〇	五〇〇	櫻橋通	富山電氣ビルディング株式會社	同
製氷・冷藏業	三〇〇	一三〇	赤江町	日本海冷藏株式會社	石黑傳六

魚問屋	三五〇	九八	八人町	富山魚市株式會社 狐塚安次郎
漁業	二四〇	二七三	東岩瀬町	深曳漁業株式會社 飯倉平兵衛
有價證券土地建物不動産投資並ニ金錢貸付	三〇〇	二三〇	總曲輪	蓮沼土地商事株式會社 蓮沼長藏
同賣藥販賣	五〇〇	一七五	越前町	日本藥品販賣株式會社 長谷川伊三郎
有價證券・土地・不動産投資並ニ賣買・水道敷設・土木建築請負	二〇〇	一〇〇	總曲輪	中越土地建物株式會社 中田輝顯
自動車・附屬品販賣修繕	二〇〇	一〇〇	下木町	北越自動車販賣株式會社 淺野武雄

合資・合名會社

營業種目	出資額	營業所	名稱	代表者
黃燐製造	七〇〇千円	稻荷	合資會社金山電化工業所	金山亀之助
砂糖・麥粉・諸油販賣・金錢貸付	二〇〇	木町	合名會社須田藤次郎商店	須田藤次郎

其の他市外及縣外に本店を有する會社の支店、出張所も尠くない、即ち前掲銀行、工場關係以外のものでは國策會社たる日本發送電の北陸水力建設事務所、日本米穀の富山米穀市場を始め日本電力、日本カーバイト、日本水産、日本勸業證券、日興證券、川島屋證券、日産土木、佐藤工業等の支店、出張所を主なるものとし、百貨店宮市大丸は西町に、食料品株式會社明治屋は中町角に夫々店舗を有し、其の他生命保險會社の支店、支社又は出張所、事務所等十餘を數へる。

【市場】 富山市に始めて米市場の開かれたのは寛政二年（一四九年前）で後に袋町より中町に移り、更に總曲輪に轉じて遂に閉銷し、明治二十七年新に殿町に富山米穀肥料取引所の創立を見、後ち富山米穀取引所と改り、富山縣が米産地である丈け、夫れ丈け其の取引も盛んで大いに繁昌を極め、昭和九年營業免許更改期から新に銘柄清算取引を開始したが偶々米穀配給統制法の公布に伴ひ日本米穀株式會社に吸收さるゝことになつて昭和十四年十月解散、ここに富山取引所としての四十餘年の歷史の幕を閉ぢ、十五年四月から新に日本米穀の富山米穀市場として開場、現物賣買取引、未着物取引を行つてゐる、又た富山魚市株式會社は八人町に、富山八百物市場は總曲輪に在る、共に明治三十九年の創立に係るもので、日々數百の商賣群集して其の價格を競ふの壯觀は、今なほ昔に異る所がない、市内は勿論附近の村落に需用する魚介野菜は、概れ此の市場に上つて供給せらるゝのである、最近昭和十四年一ヶ年の賣上取扱高を見ると魚市は約百貳拾萬圓、八百物市場は約九拾參萬圓であを。

【商工團體】 以上の如き商工業の殷賑發達は自ら自治的商工團体の設置を促し、法規に依つて設立せる産業組合十、酒造組合一、同聯合會一、重要物産同業組合四、外に最近經濟統制の强化に伴ひ商業組合、工業組合の設立相踵ぎ、昭和十五年十一月末現在で富山市に事務所を置くもの商業組合五十六、同聯合會五、工業組合三十四、同聯合會一の多きに上り其の他準則組合及商工同業者の自治的申合組合も少くない、只明治三十一年創立された富山市商工業組合聯合會は最近の經濟新體制に鑑み

昭和十五年十一月發展的解散したが、之れに先立ち同年八月富山縣商業革新報國會富山支部の結成を見、事務所を商工會議所内に置き、其の目的の爲に活躍してゐるが、其の包含する組合數九十三、支部長は大間知喜一郎氏、副支部長は若林元四郎、富川保太郎兩氏である。

【職業別戸口】 富山市の昭和十四年十二月末現在調査（編入地を含む）による職業別は左の如くである。

業別	戸數	人口	業別	戸數	人口
農業	二、六七九	六、八〇九	商業	六、五二五	一六、一二七
水産業	二四五	三八七	交通・業	八五二	一、七一三
鑛業	五三	七九	公務・自由業	三、三七二	八、〇五五
工業	四、一五一	三〇、四四七	家事使用人	一八一	一、二〇二
			其他の有業	三、三二〇	六、二五一
			無職	三、二八七	五六、八一三

【物價賃金】 富山市の物價及び賃金の趨勢を指數に依つて最近五ケ年間を見ると左記の通りで、物價は大正十年を、賃金は同八年を一〇〇としたものである。

	物價指數	賃金指數			
昭和十年	九〇・七	八四・二	同	十二年	一〇二・四	八九・五
同 十一年	九四・五	八五・五	同	十三年	一〇七・〇	九六・六
			同	十四年	一〇八・一	一〇九・四

金融

概說 斯く商工業の發展に併行して金融機關も大に發達し、銀行を中心として無盡會社、信託會社、郵便貯金爲替、信用組合を始め質屋、個人金貸業など何づれも活潑に活躍しつゝあり、就中富山市に於ける銀行業の發達は北陸の各都市中に冠たるのみでなく地方稀に見る所である。

【銀行】 卽ち富山市に於ける金融機關としての銀行については前にも述べた如く資金甚だ豐かで財界の恐慌時に會しても地方の金融界は比較的平靜な狀態におかれてゐる。今既往三年間の年末現在市内銀行帳尻を見ると左の通りである。

	預金	貸付金			
昭和十二年	三九、三七三千円	四九、〇九二千円	同	十三年	四五、四三八	五七、三二五
			同	十四年	五三、四八九	六五、三五七

【手形交換】 手形交換所は十二銀行内に設けられてゐるが、最近三年間に於ける交換枚數及交換高を擧げると左の如くである。

	枚數	金額
昭和十二年	一六〇、三五四枚	五五、五五九千円
同　十三年	一六九、七〇八	六九、九八六
同　十四年	一八四、七四四	九四、六六二

【貯金爲替】　銀行が一般的の金融機關であることは言ふ迄もないが、郵便局の取扱ふ郵便貯金爲替等も地方金融に重大の關係がある、即ち最近三年間における富山市内各郵便局の取扱ひ概況を見ると左の如くである。

郵便貯金

	預入 口數	預入 金額	拂戻 口數	拂戻 金額
昭和十二年	二八九、三二七口	三、七三三千円	九四、七〇一口	三、四五四千円
同　十三年	六五三、一四五	四、九二一	一〇八、二八五	四、一一五
同　十四年	八四一、八九八	六、三四七	一三三、七三八	五、〇九九

郵便爲替

	振出 口數	振出 金額	拂戻 口數	拂戻 金額
昭和十二年	七一、〇三七口	一、五〇六千円	九七、四三四口	三、六四七千円
同　十三年	八〇、三三四	一、七〇五	一〇七、八九一	二、九八四
同　十四年	八九、二〇五	二、一一七	一一八、一六四	三、八六五

振替貯金

	拂込 口數	拂込 金額	拂渡 口數	拂渡 金額
昭和十二年	五五、八〇五口	六、〇二七千円	一五、八三六口	四、五三七千円
同　十三年	六一、六五一	七、七六三	一八、八三九	四、一一六
同　十四年	七七、二四〇	一〇、六〇〇	二〇、〇三〇	四、四一〇

【信用組合】　富山市に於ける信用組合は六組合あり、夫々金融事務を取扱ひ、組合員の貯金及融資の便を圖つてゐるが縣信聯を除き他の五組合に於ける最近現在の組合員總數二千三百八十八人、出資總額拾八萬五千六百五拾圓、拂込濟出資總額拾六萬參千八百五拾參圓で、貸付百七拾貳萬八千六百八拾九圓、貯金百五拾九萬七百四拾貳圓である。

【信託會社】　之も金融機關の一である信託業として資本金百萬圓の北陸信託株式會社がある。昭和十四年末の信託引受現在高百九拾萬五千圓、信託貸付勘定百五拾貳萬餘圓である。

【無盡會社】　更に富山市には庶民金融機關としての無盡業が發達して居り、本店會社としては中越無盡株式會社、無盡公司共益株式會社の二社があつて此の資本金總額五拾五萬圓、最近現在の給付金契約高は參千四百七拾五萬八千圓に上り貸付金高は貳百貳九拾萬五千圓である。また此の外に日本海無盡、明正無盡等の出張所があり、尙ほ古來富山地方には個人組織にかゝる無盡、俗に頼母子講が甚だ盛んで其の計數は明かでないが、相當巨額に上つて小口金融に便してゐる。

【質屋】　金錢貸付業としての個人金融は具體的數字を擧げることは困難であるが、下層界の金融機關としてなくてはならぬ質屋が市内に十九戸あり、昭和十四年中における其の金融概況を見ると貸付（入質）の口數三萬八千四十九口、金額貳拾壹萬九百五拾四圓、回收（受質）の口數三萬二千五百九十三口、金額拾七萬貳千貳百四拾八圓、更に流質の口數は一千九百六十口、金額七千貳百參拾五圓である。

交　通

概　説　我が富山市は富山縣の中央に位し、道路としては東方越後に通じ、西方加賀に達する幹線道路を國道とし、飛驒に達する路線の外縣下主要各地に至る數條の縣道が通じ、鐵道にありては省線北陸幹線が市の東西を縱走して西は京阪神地方へ、東は東京横濱地方への交通が自由なるのみでなく、往年の羽越線全通は青森、下關を連絡して我が富山は其の中間に位し、北海道及東北地方と關西九州地方との交通甚だ至便となつた。又富山より高山を經て岐阜に至る高山本線と北陸線との分岐點たる要衝に當り、名古屋方面との交通も利便である。更に省線富山驛を中心に郊外へ放射する社線等が實に六線に及び、北陸に於ける交通都市の觀がある。加ふるに航空路の開拓に依つて東京――富山。富山――大阪間に定期航空の實施を見つゝあることは聊か誇るに足る。

【空路】　富山市の北西約二里半、婦負郡倉垣村に建設の愛國飛行場即ち富山飛行場を空港とするもので、東京、富山間の飛行は大日本航空株式會社（當時は日本航空輸送株式會社）が遞信省及縣市援助のもとに、昭和九年五月より開始したが、越えて同十一年十月より富山、大阪間の延長開始を見

たのである。更に富山、名古屋間の空路開設を始め、地理的關係上日本海を通じて日滿連絡の重要航空路の開設を見るの日の遠からざるを期待されてゐる。

【道路】　富山市内の道路は國道六千六百四十九米突、縣道二萬五千百七十九米突、市道十七萬四千五百四十六米突、合計二十萬五千八百七十四米に達して四通八達し、主要道路は何れも鋪裝されてゐる。更に市内の橋梁は多數に上つてゐるが、其の延長は國道六百四米突、縣道七百九十七米突、市道千百七十一米突に及び、これは火防水路の完備さを如實に物語るものと云ひ得やう。

【鐵道】　省線は富山驛を中心に縣内九六・三粁に亘り、富山驛から分岐する高山本線四一・四粁は飛驒高山を經て岐阜に通じ、其の他立山登山口粟巣野に至る縣營鐵道一九・五粁、市の東部を繫ぐ富南鐵道九・五粁、滑川を經て三日市に至るもの及び五百石を經て岩峅寺に至る富山電氣鐵道四八・二粁、東岩瀬港に至る富岩鐵道八・二粁、伏木港に至る越中鐵道一九・九粁の各社線が市を繞つて放射されて居る。從つて市を繞る驛は省線富山、西富山を始め縣營の南富山、富南鐵道の富山、稻荷、富山電鐵の富山、東田地方、稻荷、富岩鐵道の富山、富山口、越中鐵道の新富山、富山北口の十四驛の多きを數へ、其の呑吐する旅客集散の貨物は年を逐うて增加を見つゝある。

【電車】　富山驛前を起點に櫻橋を經て堀川新驛に至るを本線とし、西町より縣廳前を經て富山驛前に至るのと、西町より新大橋を經て吳羽公園に至るのを支線とし、更に西町より堤町通りを元中教

院前に出で砂町より雪見橋を經て東田地方なる富岩鐵道の連絡地點に達し、更に櫻橋通り本線に結ばれるものを東部循環線とする、本線及び西廻り支線は大正二年九月の創設にかゝり、吳羽線は同五年十一月から、東部線は昭和三年十月から開通し其の後本線に結び付く循環線となつたもので、此の總延長一六粁一二六で二十七臺の車輛を有する、元は富山電氣軌道株式會社の經營する所であつたが、大正九年に至り之を市營に移管し爾來各線の改修及延長を行ふた。昭和十四年の乘客六百二十五萬三千五十三人、此の賃金貳拾八萬貳千七百七拾六圓である。

【自動車】 更に近時交通機關の一として自動車運送の發達最も顯著なるものあり、市營バス及富山、笹津間一三粁〇八を運轉する省營バスを始め會社或は個人經營で盛んに貸切に、乘合に、將たトラックに其の活躍を見て居るが、昭和十四年中に於ける市營、省營バスの成績は左の如くであるが市營、省營の外に市内より郊外に達する會社經營バス路線は十一線に及んでゐる。

省營バス　乘車人員三十八萬二千七百三十二人、賃金六萬七千六百八拾圓。市營バス　乘車人員百二萬五千四百四人、賃金五萬五百九拾六圓。

【諸車】 其の他市内に於ける昭和十四年末現在の諸車數を擧げると左の如くである。

▽自轉車一二、〇一四　▽人力車一四　▽荷積牛馬車二一　▽荷車一、一九九

通信

概說 富山市に始めて富山郵便役所なるものゝ置かれたのは明治五年で、それが今の富山郵便局の前身である、其の開始より今日に至るまで幾多の變遷を經、著しき發達を遂げて居る、又た電話の初めて市内に架設を見たのは明治三十九年で、當時は其の個數漸く二百個を超ゆるに過ぎなかつたが、爾來逐年加入の數を增して從來の富山局に於ける電話交換室は狹隘を告ぐるに至り、昭和六年荒町の一角に分室を新築して之に移り、同時に在來の複式交換機が一躍自動式に變更されたのである。

【郵便】 富山郵便局の區内には三等郵便局が十四局あり之等は何づれも無集配局であるが最近三年間に於ける富山局の郵便物取扱數を見ると左の通りである。

	通常郵便			小包郵便		
	引受	配達	合計	引受	配達	合計
昭和十二年	一三、四三〇、五四九	一〇、七八一、二一三	二三、二一一、七五七	二〇五、一二五	一五〇、六八〇	三五五、八〇五
同　十三年	一三、四一四、八一八	一一、一〇三、五四七	二三、五一八、三六五	二三五、四七七	一五六、八九六	三九二、三七三

昭和十四年　三、九二九、六九一　二一、三三一、五三一　二四、一五一、二三三　二四八、一〇〇　一七三、一九八　四二一、二九八

【電信】　是亦郵便と共に發達しつゝあり富山局を始め傘内各三等局及び富山縣等最近三年間に於ける取扱數は左の如くである。

	內國電報			外國電報		
	發信	着信	合計	發信	着信	合計
昭和十二年	二〇九、七八八	一八四、一三六	三九三、九〇四	四六七	二六七	八三四
同　十三年	一八六、四二三	一七六、八〇六	三六三、二二八	三五八	三三六	六九四
同　十四年	二〇九、一〇三	一九七、二六四	四〇六、三六六	四五	六七	一二

【電話】　昭和十四年末現在に於ける電話加入者數は二千九百二十二個に達してゐるが、最近一年間の通話狀況を見ると、市內呼數二千六百十二萬八千六百十一回で、更に市外通話では發信六十七萬六百三十七回、着信七十五萬三千二百三十九回である。

【保險】　富山郵便局に於ける簡易生命保險は、其の開始以來頗る良好の成績を擧げつゝあるが、今昭和十四年の概況を見ると次の如くである。

	新契約 口數	新契約 金額	年末現在 口數	年末現在 金額	保險料徵收	保險金及還付金拂渡
	一〇、〇八五	九八、七七七	六七四、二八六	四、四五九		

保險料　一〇、九四六円　七九、三八七円　五九七、〇八四円　保險金額　三三九、七六九円

【年金】　更に郵便年金の概況を昭和十四年度に就て見ると左の如し

	新契約	掛金拂込	現在受持	掛金徵集	年金及返還金拂渡
口數	二〇五		五四五	六七〇	九三三
金額	八七、一三九円		二七、四八八円	一〇、六八七円	二〇、九八四円

【放送】　富山放送局は昭和十年十二月の開設で、碧空に聳ゆる鐵塔は一偉觀を呈してゐる。同局管內縣下の總加入者數は昭和十四年末現在で四萬四千二百八人、內富山市內は一萬百六十九人である

雜　俎

商工業に關する事項の外、猶ほ富山市に於て案內すべきものが多い、今左に其の要綱を一括して記すことゝした。

【市政】　明治二十三年四月市制を施行せらるゝや富山市と稱し、同年六月市役所の開廳を見て茲に初めて市政を行ふたのである。市制施行當時の收支豫算は僅かに壹萬四千四百參拾九圓に過ぎなか

つたが、市の發展に伴うて財政も亦年と共に膨脹し、昭和十五年度當初豫算は百五拾貳萬七千餘圓に上り其の他に電氣軌道事業費、乘合自動車事業費、水道事業費及都市計畫事業費等の特別會計五拾八萬餘圓があり、隨つて市民の負擔も多大の增加を來し、直接稅平均負擔額は左の通りである。

	總額	國稅	地方稅	市稅
總稅額	二、三九七、九七二・〇〇円	九九四、六五三・〇〇円	五四二、八〇四・〇〇円	八六〇、五一六・〇〇円
一戶當	一一八・九九	四九・三五	二六・九三	四二・七〇
一人當	三三・五三	九・七六	五・三三	八・四四

尙ほ其の後の追加及區域擴張に伴ふ新編入町村の豫算をも合するときは昭和十五年九月一日區域擴張當日現在の豫算總額は參百貳拾九萬五千圓の膨大なものに上つて居る。

【議員】 貴族院議員は縣內を通し互選を以て多額納稅者から一人を出し、衆議院議員は富山市及上中下三新川、婦負の一市四郡を以て一選擧區とし、其の定數三名、縣會議員の定數を三名とし、市會議員は三十六人、商工會議所議員は三十人外に顧問六人で、最近に於ける其の選擧權者は衆議院議員一萬九千三百四十人、縣、市會議員一萬七千九百三十七人、商工會議所議員千三百三十九人である。

【教育】 安永二年(一六八年前)三代の藩主前田利興卿が、廣德館なる藩學校を創立したのが越中に於ける教育の濫觴である。爾來時勢に應じて變遷を經、明治の年代に入つてからは長足の進歩を爲し、現

に市內及市の附近には官立專門學校一、縣立高等學校(七年制)一を始め縣立には男、女師範學校各一、中學校二、商業學校一、工業學校一、高等女學校一、青年學校教員養成所一、夜間中學校一、又市立には工業學校一、藥業學校一、高等女學校一、女子商業學校一、青年學校一三、商工學校一、女子青年學校一、小學校一三、幼稚園一等の外私立には各種女學校四、工科學校一、青年學校二、幼稚園一一があり、尙ほ市立圖書館は總曲輪に在つて、明治四十二年に行啓記念として設立され、縣立圖書館は舊城址大正會館內に在り、縣の紀元二千六百年紀念事業として昭和十五年四月設置せられたものである。

【新聞】 社會の耳目、輿論の木鐸である新聞の富山に起つたのは、明治十五年四月越中新誌の發行を以て嚆矢とする。爾來新聞の興隆起伏は啻ならず、最近まで日刊新聞として多年の歷史を有して信用と勢力を保つたものに富山日報、北陸日日新聞、北陸タイムスの三新聞があつたが、國策に順應して多年の歷史を一擲し、前記三新聞社及高岡市に本社を有した高岡新聞社の縣下四日刊新聞社は昭和十五年七月末を以て敢然解體し、新に其の合同に依る北日本新聞社を創立して八月一日其の第一號を發刊した。尙ほ縣外の日刊新聞にして支局又は通信部を設置するもの七を數へる。

【社寺】 古來北陸の人士は神佛崇敬の念に厚く隨つて神社佛閣も尠くない。富山市に於ける神社は縣社二、鄕社四、指定村社八、其他の村社二十四、無格社七、外に護國神社一で、寺院では眞宗最も盛んにして其の本派六十、大谷派三十二を算し、日蓮十五、淨土十二、曹洞八、眞言三、臨濟三、

時宗及天台各一、計百三十五ケ寺、外に敎會として天理敎十、古義眞言三、日本メソヂスト二、金光二、日本基督、救世軍、日本聖公、天主公、御嶽、曹洞の各敎會が一宛ある。

【社會】　市の社會的施設としては、夙に山王町と東堤町の二ケ所に公設市場の設けがあつたが都合上昭和十四年三月限り廢止となつた。職業紹介所は大正十一年以來山王町の公市事務所内に設けられてゐたが、昭和十三年七月國營に移營され最近總曲輪に移轉したが、其の昭和十四年中の事業狀況によると求人數二萬五千百五十七人、求職者數九千七百四十三人、就職者數六千四百六十五人である其の他兒童保護事業として勞働者の爲めに設くる託兒所が市立二、私立二、保育園二、外に農繁期に際し季節的に設くるもの三箇所あるが、共に良好の成績を示して居る。又市營住宅は市内七ケ所に散在し、特種と甲乙丙丁の五種に分れ百五十二戸あり、尙ほ鰥寡孤獨の貧民を救助し、無告の孤兒を養育する富山慈濟院は、財團法人組織で市郊外西中野に在る。

【警備】　特有の南風吹荒ぶ富山では、古來大火災が多かつた。火事が江戸の花であると共に、小江戸の稱ある富山でもまた火事は名物の一つに數へられ、數千戸を燒失した大火の歴史が乏しくない幕末の頃より明治時代にかけて、さうした富山市の大半を焦土と化した大火が四、五回もある。此の辛い體驗に鑑み鋭意消防機關の改善に努めた結果、今日では其の完備せること、六大都市を除いて他に多く其の例を見ない。

【衛生】　富山市に病院の起つたのは明治九年石川縣立病院の分院を設けたに始まるので、爾後經營者の交迭に伴うて幾たびか名稱を變じ、遂に四十年に至つて日本赤十字社富山支部病院となり、新築して東田地方町に移轉したのである。外に清水町には有毒者を收容する縣立富山婦人病院、牛島には傳染病者を收容する市立の神通病院があり。櫻町には昭和十年四月新に開設された濟民救世の濟生會富山病院及び五福に私立の富山腦病院がある。又病院に從事する醫師の外市内に於て現に開業する醫師百四十五人、齒科醫四十二人、藥劑師二百八人で產婆が五十七人ある。尙ほ市内に看護婦會が七あり看護婦が三百二十三人ある。

【水道】　富山市の上水道問題は多年の懸案であるが市の財政關係と一面市内の井水が良質のものが比較的多い等彼此未だ實現を見るに至らないが、昭和十一年富山市に日滿產業大博覽會が開催されたのを機會に工費拾萬圓を投じて簡易上水道を敷設したが、水源は神通埋立地内に繫井したもので、市内の西北部に給水されて居る。

【電燈】　富山市に於て初めて電燈の點ぜられたのは明治三十二年で、それが今の日本海電氣株式會社の前身である富山電氣の創立に依る。而して市内の電燈供給は同社に於て獨り之を占めて居り、昭和十四年末現在市内の需用家は一萬八千九百二十二戸、此の點燈數が十三萬三百四十五個、此の外街燈臺數五千六百三十四あり市中を不夜城化して居る。なほ近時暖房、厨房用其の他に電熱の利用も

ある、流石に電氣王國を想はしめる。

【瓦斯】　之も日本海電氣の兼營事業で其の創始は大正二年である。昭和十四年末現在市内の需用家數は三千九百二十九戸、孔口數が燈用四百五十戸、熱用九千三戸、合計九千四百五十三戸に上り需用益々旺盛ならむとする傾向にある。

【法曹】　市内に在住する辯護士は二十人、公證人は二人、執達吏は三人ある。

【興業場】　劇場として上り立町にとやま座あり、總曲輪の帝國館、中町の松竹館、袋町の東洋館二番町の映畫劇場、餌指町の新富座、二番町の文化劇場は共に常設の活動寫眞館である。

【旅人宿】　市内の宿屋業者は旅人宿五十五軒外に木賃宿が九軒、下宿屋が七軒で昭和十四年中の宿泊人員約六萬人である。

【料理店】　市内の料理業者は百三十餘軒で、櫻木町と清水の舊遊廓の内外に集合的となつて居る外、全市に亘り散在して居り、尙ほ舊遊廓は市の東部清水町に在つて俗に東新地と稱したが昭和十三年四月公娼制度の廢止に伴ひ廓内の貸座敷は料理業に、娼妓は藝妓に夫々轉向したのである。

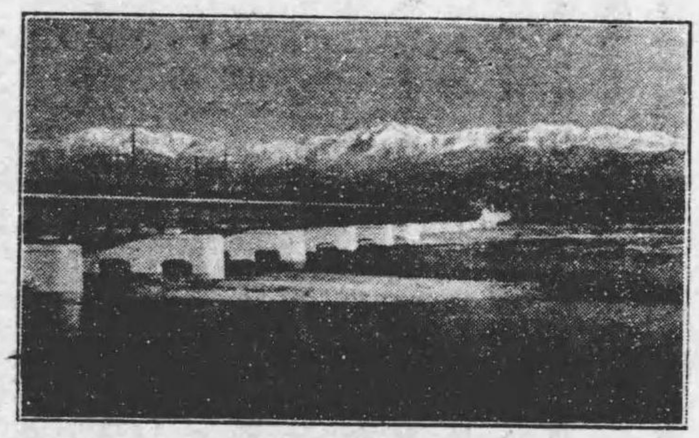
【藝妓】　舊遊廓に屬する藝妓は約二百五十人、これ等は廓内の置屋十五軒及料理兼業四十七軒に所屬し、町藝妓は其の多くは元遊廓であつた櫻木町に住し、此の一廓内にも十四軒の置屋があつて約五十人あり、共に檢番制度をとつて居る。

名勝舊蹟其の他

富山市内及附近には名勝舊蹟が尠くない更に立山、黒部を抱擁する中部山嶽國立公園がある茲に其の主なるものを紹介する。

【富山城址】　市の西北にあつて舊神通川の南方にある。城の外濠は既に埋立てられて昔の俤はないが、舊本丸周圍の濠溝、壘壁のみは今尙昔ながらに存在してゐる。此の城址は今を距ること四百九年前即ち天文元年越中の土豪水越越前守勝重の經始した所で、天正七年（三六二年前）佐々成政越中國の守護職として入城してから壘を高うし濠を深うして城廓を改修した。慶長二年（三四四年前）前田利長守山城からこゝに移り、同十年に至つて大に樓櫓を改造し四方に石垣を繞らし、二重に濠溝を設け、一たび有事に際せは神通及熊川の水を引いて市内を浮城にすることを計り、其の要害堅固なる北國屈指であると傳へられた。寛永十七年（三〇一年前）前田利次富山に分封せられて更に城廓を築き累代の居城となつた。廢藩置縣後或は縣廳となり、公園となり幾多の變遷を經て今日に及んだもので、現に　大正天皇東宮に在せし頃行啓あらせられた大正會館（舊縣會議事堂）がある。

【神通川】　古へ賣比河又は鵜坂河と稱し、大伴家持の詠歌に依つて世に著れて居る。其の源を飛



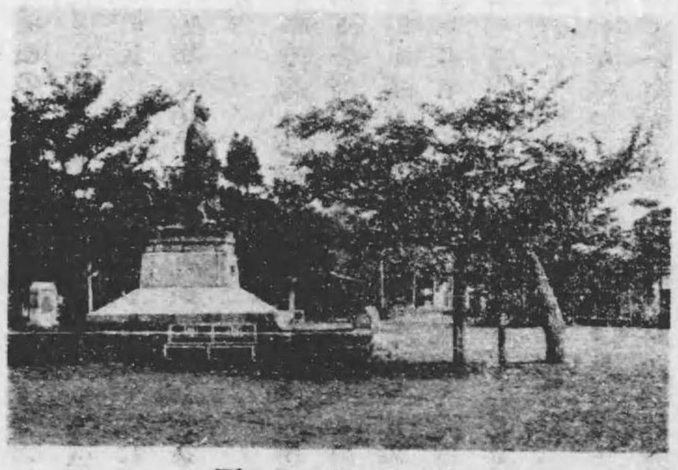
神通川

驛の位山に發し、富山市を貫流して東岩瀬港に注いで居る縣内の流域約十四里、灌漑の利あつて、富山市の上下六里は舟楫の便がある。產する所の鮭、鱒、鮎は名產として聞え高く、明治四十五年御獵場に編入せらるゝ名譽を得た。神通河畔は風光明媚、前田正甫の七子利鄉の詠した神通八景の歌は今尙世に傳はつて居る。

【神通地區】 明治の中世まで神通川が流れてゐた所で「神通舟橋」或は「神通八景」等と其の風光絕佳は或は詩題に、歌材に供せられてゐたが、改修工事の結果廢川地帶となりその面積約三十餘萬坪は富岩運河の開鑿土を以て埋立られて今は新市街となり縣廳、放送局、武德殿、興銀支店、警察署、電氣ビル等豪壯建築が偉觀を呈し、櫻橋大通りを境に、その以西は殷賑なビルディング街と化しつゝあり、北方一帶の工場地帶には富岩運河の船溜があり、東岩瀬港に通じてゐる。

【吳羽山公園】 富山市を距る西北僅かに十餘丁、海拔二百六十四尺、越中平野を中斷する丘陵である。天正十三年(三五六年前)豊臣秀吉が佐々成政を討つべく精兵を率ゐて陣營を構へた白鳥城址は山の一部にある。山上に建つる皇儲駐駕の記念碑は、明治四十二年　大正天皇東宮に在せしとき行啓あらせ給ひ、親しく風景を賞はせられた御野立所跡である。北方廣場には賣藥界の大恩人である舊藩二代の英主正甫公の銅像が建設せられ一段の風致を添へた。市電、バス共に山麓に延長せられ、また山頂まで自動車道も整備し一般遊覽に便である。

【五百羅漢】 吳羽公園内長慶寺境内にあつて、その昔信者の寄進に係るもので、寛政より嘉永に至る五十餘年間佐渡にて刻み、海上から運びてこゝに安置せられたものである。信者を始め佛像研究者からは非常に讃美せられてゐる。



吳羽山公園

磯部堤の櫻

【長岡廟所】 吳羽山の北端に方る長岡山にあつて、舊富山藩主前田家歴代の廟所である。境内廣濶、累世の墳墓儼然として並列する。綠樹天に聳え、幽邃閑雅恰も仙境の如く、また廟前に羅列する六百の燈籠は藩士の獻供したもので、毎歳八月八日に祭典を擧げられ此の獻燈悉く火を點じて頗る美觀を呈する。

【磯部堤の櫻】 市の西端神通川の清流に沿ふ磯部堤上數百間、往年市内有志に依つて吉野から移植されたもので今や參差枝を交へ磯部堤の櫻として新名所となり、其の燎爛の候は蜿蜒花の隧道を現出し、之を遙かに望めば白雲靉靆として宛然武藏の熊ケ谷堤の櫻にも髣髴たるものあり、陽春花時護國神社を中心に大に賑ふ。尙ほ同堤上には一樹の大榎あり、幹の周圍十八尺、高さ四十尺餘、枝葉參差數十尺に達して居る。天正年間佐々成政時代の傳說に絡み歴史上有名である。

【護國神社】 市の西端磯部にある。本縣出身者で靖國神社に合祀せられた殉國志士の英靈を祀つてある。大正二年の造營に係り、境内三千五百坪、本殿、拜殿等は頗る壯觀である。元富山縣招魂社と稱したが、最近富山縣護國神社と改められたもので、奉齋會の組織がある。社地は富山藩二代の主前田正甫公の造られた磯部御庭の址で、當時庭内には富士山、琵琶湖の模造などあり、茶の木山、卯花山あつて頗る美觀を極めたものであると云ふ。

【日枝神社】 市の中央山王町にある。祭神は大山咋神を祭り、天照大神、豐受大神を配祀してある。始め新川郡針原に在つたのを後に富山に遷してから神保、佐々兩城主の崇敬淺からなかつたが、前田利長卿富山に入城して產土神となし、社殿を造營して今の地に遷座したもので、明治三十二年縣社に列せられた。毎年六月の大祭は山王祭と稱へて市内は勿論、近鄕よりの群集雜踏其の殷賑名狀すべからざるものがある。

【於保多神社】 市の東部柳町にあり。前田家の祖先菅原道實公を祀り尙ほ前田利次、正甫、利保の三公をも合祀してゐる。前田家累代の祈願所で、明治九年に縣社に列せられた。寶物に菅公筆三社託宣書、一條兼良筆渡唐繪卷物等あり、後方境外地三千坪は東部市民の公園として參拜の傍ら散策するものが多い。

【兩別院】 眞宗本願寺派富山別院、大谷派富山別院は共に總曲輪本通りにある。明治十三年東別

院（大谷派）が豊川町に建立せられ、其の後現地に移り、引續き西別院（本願寺派）が建立されたもので、日々善男善女の參詣が絶えない。特に毎年西別院の一月十五日、東別院の十一月二十七日に修行する七晝夜滿座法會は、俗に御滿座と稱して大に賑ひ、市の年中行事に數へらる。

【光嚴寺】　市の東南五番町にある。曹洞宗の巨刹で富山藩主の菩提所である。現今の伽藍は貞享年間（二五二年前）の建築で境内四千七百餘坪ある。正甫公時代の碩儒南部草壽を始め南部三代の墓碑があり老樹鬱蒼として天を蔽ひ市内屈指の淨域である。

【大法寺】　市の東南梅澤町にあり、日蓮宗の巨刹である。實永三年（三三五年前）日行上人の創立で、元祿三年（二五一年前）中興の祖日德上人の時二代藩主前田正甫公深く日蓮宗に歸依して本寺を菩提所とした。從つて藩士も新に日蓮宗に改宗するもの多くあつた。文久三年（七八年前）の大火で、堂宇悉く灰燼に歸したが、後藩廳之を再建し漸く舊に復した。境内約二千八百坪老樹枝を交へて古色蒼然として居る。正甫公の寄附に係る名高き赤栴檀の釋迦立像を藏して居る。

【富山寺】　市内古鍛冶町に在り、眞言宗にして市最古の寺院である奈良朝時代神亀元年（一二一六年前）僧行基大和國より當國藤井村（富山築城以前の名）に弘通し來り、一寺を建立して藤居山富山寺と稱した。其の後故あり現地に移され、富山城の築城と共に普泉寺と改號したが、明治四十年四月元に復して再び富山寺と稱するに至つた富山の名は此の寺號に起原すと傳へらるゝことは沿革に於て述べた通りである。

【圓隆寺】　同じく市の東南梅澤町にあり、天台宗にして正覺山と號し、寛文六年（二七五年前）江戸上野寛永寺の末寺となり山號寺號共に輪王寺宮法親王より下賜されたもので、富山藩祖利次公祈願所とせらる。古來此の寺にて毎年七月十四五兩日行ふ祇園法會は年中行事の一として大に賑ひ、當日境内に少女群集して催ほすサンサイ踊は有名である。

【妙國寺】　之亦市の東南梅澤町にあり、富山賣藥の元祖萬代淨閑は備前岡山の藩醫にして天和年間富山城に來遊し、起死回生の妙藥「反魂丹」を前田正甫公に獻し、且つその製藥を傳習した。翁病歿後賣藥行商人分骨を乞ふて歸富し、日向山妙國寺境内に葬り毎年五月五日祭典を營み其の恩惠を偲んでゐる。こゝには淨閑翁の墓の外賣藥行商の元祖八重崎屋源六の碑がある。

【商店街】　市の中央總曲輪本通り及中町、袋町、東四十物町通り、西町、二番町、一番町通り、元中教院前通り、千石町通り等、こゝ一帶は市の最も繁華な商業地帶で富山銀座、千石町銀座、中町商店街等と稱して最も殷賑を極めて居り、高層建築のデパートや各種各態の專門店が軒を裝ひ照明を整へ、さてはカフエー、飲食店、劇場、常設館、遊戯場等がある。

【廣貫堂】　つばくらめ越中富山の藥屋さんとまたも行き逢ふ旅の空……。賣藥で知られ賣藥でなつかしまれてゐる株式會社廣貫堂は、市内梅澤町にあり、富山賣藥の代表的の製藥會社にして明治九年三月の創設になる。明治四十二年十月一日　大正天皇東宮時代に鶴駕を枉けさせられたる當時

の御座所を有してゐる。昭和十年五月伸び行く産業大富山をシンボライズして藥都の輪奐美を誇る一千數百坪の大製藥工場を新築し醫藥王國に相應しい代表的工場の整備成る。

【八ケ山遊園地】 市の郊外越中鐵道で約十五分長岡八景の一に詠まれ四季の眺矚に富み運動場、スキー場、鳥獸飼育等幾多の施設が施されて衆庶遊覽の文化的遊園地である。

【富山飛行場】 八十萬富山縣民の熱誠なる醵金によつて生れたもので、昭和八年五月起工同年九月竣工し十月八日には、畏くも帝國飛行協會總裁 梨本宮殿下の台臨を仰いで開場式を擧行した。北日本の中樞に位し國防産業交通上の重要地點をしむる航空港である。昭和九年五月東京富山間、越えて同十一年十月富山大阪間の旅客及郵便物の定期航空路開かれ將來は富山名古屋間を始め內地主要都市並に對岸滿鮮航空の要路として大に囑望せられてゐる。

【立山】 富山市を距る東南約十八里にある海拔三、〇一〇米、千古不滅の雪を戴いて天空を摩する慨あり。古來富士、白山と共に日本の三靈山と稱せられ、夙に本邦二十五勝の一として推され、今や國立公園に指定せらる。頂上に鎭座する國幣小社雄山神社には天手力雄命、伊邪那岐命を合祀してある黎明濃霧の裡に五彩の異光を見ることあつて、之を彌陀三尊の來迎として渴仰して居る。社前に立つて四顧すれば眼界廣濶、富嶽、白山を始め甲信の諸山悉く一眸に集り、一轉下瞰するときは原野

平坦で河川屈曲、遙かに日本海の縹渺たる海波を認め、眞に天下の壯觀で、端なく崇嚴の感を起さしむるものがあり、かの不毛の高原彌陀ケ原は實に世界的スキー場と稱されて居る。近時全國より登山するもの年々萬餘を算し、大正十三年 今上陛下未だ東宮に在はせしとき「たて山の空に聳ゆるたゝしさにならへとぞ思ふみよのすがたも」と立山をお詠になり 秩父宮殿下を始め、北白川、竹田兩若宮殿下の御登攀以來一層山岳家の憧憬の的となつて居る。

登山路としては先づ縣營鐵道南富山驛より粟巢野驛（一九キロ五）に至るのであるが、其の間岩峅寺驛の西約二町に岩峅寺前立社壇あり、大寶年間の創建にかゝり元立山寺と稱せられ、立山權現として尊崇せられた。今は特別保護建造物に指定せられて居る、又千垣驛より南約十五町芦峅寺大宮在り、雄山神社の攝社で元神宮寺と稱し、立山の開祖佐伯有頼卿を祀る。有頼卿の木像は今は國寶に指定せらる。立山を中心として登山案內の世話斡旋を爲す立山登山者案內組合も此の芦峅寺にある。終点粟巢野驛より數町にして藤橋に達する、藤橋ホテル外旅館數軒あり。また千垣驛、藤橋間には自動車の便がある、立山登路は此の藤橋にて三路に岐る。

（A）稱名新道……稱名川の右岸を辿り、稱名瀧に至り對岸稱名坂を登り、弘法小屋に近く立山本道に合する。

（B）立山本道……藤橋を渡り千手ケ原にて左に岐れ山路を登りブナ坂を經て彌陀ケ原に達するも

のであるが、更に最近富山營林署によつて新に本道の稍南方森林地帶中に新道が開鑿せられた、捷徑たると風光に富むを以て推賞せらる。

（C）立山溫泉路……藤橋より常願寺川の右岸に沿ひ、立山溫泉に至り松尾峠を登りて、彌陀ケ原『追分』に至り立山本道に合するものと立山溫泉より御歌道を經て室堂に至るものとある。

【稱名瀧】　藤橋より稱名川に沿ひ遡ること約二里、熔岩流臺地の斷崖をなせる間に懸る落下實に一千三百五十尺、頗る壯觀を極む。

【彌陀ケ原】　高さ一、四〇〇米より二、一〇〇米に及ぶ廣漠たる一大高原たり、夏季は一帶の草原中ゼンテイクワ、立山ワタスゲ、其他の草花咲き亂れ花毛氈を見るが如く、冬季は此地より天狗平國見岳、鏡石室堂方面にかけて高低起伏多樣のスロープを有する事とて三、四、五月の候に於ける絶好のスキー場として夙に定評あり。

稱名瀧

【立山溫泉】　常願寺川上流湯川の傍に在り。客舍數棟あつて優に五百人を容るゝに足る。立山登遊者は勿論中部山岳探勝者の策源地たると共に又休息慰安所である。

【黑部】　東に白馬の連嶺を負ひ、西に立山の連峰を抱き、南は飛信越國境の三俣岳から起つて、北は愛本の地に至るまで南北二十里東西六里餘消ゆることなき萬年雪の下に產聲を擧げて流れ合ふ八千八谷の溪流は、次第に集り落ち合ふて岩に激し、石に鳴り、其の豪宕なる水態に於て本邦河川中の白眉と稱せられてゐる。殊に七越谷附近、猿飛、鐘釣附近は奇拔なる山容と、豪宕なる水態とは天下の絶景を以て稱せられてゐる。省線三日市驛から分岐して黑部鐵道に據るもの富山電鐵にて黑部鐵道に連絡するもの、二線あり、何づれも終点宇奈月に達す。初夏新綠の候、滿山錦を飾る晩秋に至るまで此の神秘境を探勝せんとするもの逐年增加し、殊に宇奈月の小原臺は絶好のスキー場としてスキーヤーの憧れの的となり、宇奈月溫泉亦今や北陸有數の溫泉場として知られ四時賑

黑部峽

ひを呈して居る。

【宇奈月温泉】 黒部鐵道の終點で、峽谷探勝に便利な日電專用の軌道電車此地より始まる。旅館多數あり、何れも内湯を有し、郵便局、銀行、醫院、劇場、佛教會堂、各種商店等があり、スキー場プール、テニスコート、遊園地の設備があり、黒部探勝の策源地である。

【鐘釣温泉】 宇奈月より約一五粁五、軌道一時間半にて達する、岩窟内の天然浴場は古來夙に名がある。收容人員七八十名、自炊部もあり、亦黒部探勝の好策源地である、猿飛は鐘釣より約六粁五其奇勝古來世に鳴る。

【蜃氣樓】 毎年春夏の候、富山灣の波穏かに風收まる日、海上數里の間に或は森林、或は橋梁、或は城廓等諸種の幻影を見ることがある。そしてそれは縣内沿海地に往々現はるゝのであるが、中にも魚津浦方面の出現最も多く、實に天下の奇觀である。

【螢烏賊】 我邦に於て本縣滑川沿海のみに產する特產である。特種の發光器を有し夜間之を漁獲するとき、煌々として恰も海中に無數のイルミネーションを點するの觀あり、其の漁期亦春夏の候で蜃氣樓と共に富山灣の二大奇觀と稱せられ、季節には觀光客が尠くない。

童謠と民謠

サンサイ踊

毎年七月十四、五日祇園祭りの當夜ともなれば市内梅澤町圓隆寺境内には年頃の娘が三々伍々紅の裳を飜しつゝ打ち集ひ節面白く謠ひながら、袖振合はして踊るのに「サンサイ踊」と言ふのがある。その昔富山城主佐々成政の國替を喜んだ前田氏が人心收攬策に起因するものと傳へられてゐるがその歌詞は佐々の世にあらずして前田氏を謳歌した唄の轉化したものだとも言はれてゐる。

〽踊り見に來て踊らんものは
　足にたんこべ出來てくれ
〽盆が近くなる紺屋が燒ける
　盆の帷衣白で着た
〽姉か妹か髷見りや分る
　妹銀杏で姉島田
〽おらつちや小さい時起上り小法師
　寢たり起きたりころんだり
〽東たんぼに光るもんななんぢや
　虫かほたるかこがれの虫か
　虫でないもんな目の玉ぢや

おはら節

ラヂオに蓄音機に全國から親しみとなつかしさを以つて迎へられてゐる「越中小原節」は鄕土民謠を代表するもので、その發祥地八尾町は富山市の西南約四里の地点にある坂街で城ケ山の嵐、井田川の流れ、神通の清流より有磯の海、立山の雄峰を望んでは土地の人々をして唄はしめたもので遠く元祿の昔に發祥し毎年二百十日の前後三日間は名刹聞名寺境内を幾多の雪洞に照し出し立

山の峰が白ける明がたまで編笠の人達が町を擧げて踊りぬき、笛三味に合せて狹い坂街を練り廻るのだがその狀景は又壯觀で鄉土情緒懷かしきものがある。

〽あいや可愛やいつ來て見ても
たすき投げやる オハラ 暇がない
キタサノサアードツコイシヨノシヨ……
明にれよーわしやはやす

〽たすき投げやる暇あるけれど
あなたわすれる オハラ 暇がない
浮いたか瓢簞かるそに流れる……
行く先ア知らねどあの身になりたい

〽軒場雀がまた來てのぞく
今日も糸繰りア オハラ 手につかぬ
おわらの御先生はあんたのことかいね……
その聲聞かせて私をどうする

〽憎や編笠そろひの浴衣
だれが主やら オハラ 殿御やら
三千世界の松の木や枯れても……

あんたと添になきや淺瀬へ出た甲斐がない

〽踊りつかれて編笠敷いて
草を枕に オハラ 盆の月
おわらのお盆だよ一年に一遍だよ……
一遍だと聞いたら飛んで出て間こまいか

〽聞名寺初夜の鐘まで糸繰り娘
いとし糸繰る オハラ 霙降る
あんたと一緒なら三原の山でも……
三原が嫌なら華厳の瀧でも

麥屋節

壽永の昔、榮華と權勢を極めた平家の一門が倶利伽羅の合戰に敗れ壇の浦にはかなくも滅びて、追手をのがれ越中五箇山の隱れ里に一時の安住を求めたが、手馳れぬ山樵農耕のつれ〴〵に往時を偲び落人の身の遺瀨なさを嘲つ絶望の叫びが自ら律をなして唄となり、感情の發露が踊りとなつて表現したそれが麥屋節の濫觴とされてゐる。そ

こに言ひ知れぬ哀調と古武士的氣魄の迫り來るものを感ぜしめずにはおかない。大正十四年日本青年會館の開館式に際し日本七代表民謠の一として推稱せられた。

〽麥屋菜種は二年で刈るが
麻が刈られよか半土用

〽五ケの谷間の種をば移し
元の都に花咲しやう

〽一丈五尺の雪つむ中で
織ればこそすれ白絹に

〽殿に着せうか城端絹の
幾世變らぬ美しさ

〽涙の屋島を遠くのがれ來て
薪樵るてふ深山邊に

〽烏帽子狩衣ぬぎうちすてゝ
今は越路の柚屋かな

〽心淋しや落ちゆくみちは
河の鳴る瀨と鹿の聲

〽河の鳴る瀨に絹ばたゝて、
涙に織らせて岩に着せよう

みやげ品

樂しい旅行の印象を生涯にとどめ懷しい思出を故鄉の人々に傳ふる爲に、旅行者にとつてなくてはならないものはその土地特有の味はひを持つ土產品であります。とやまは木工に漆器に彫刻に美術工藝地として知られそれの流れを受けた土產品にも面白いものがあつて旅情を慰めてくれます。

齊藥 正方反魂丹、小粒清涼反魂丹

露光量違いの為重複撮影

絹織物 虫除ケ、御殿帳

工藝品 木象嵌蔓セット、木象嵌巻莨入、木象嵌木鉢、木象嵌盆、仝額、繪葉書額、透彫かま敷、軸箱、短册箱、花台、ペン皿、軸盆、方形盆、新聞盆、ビール盆、菓子器、セット銘々菓子取、色紙箱、手箱、器局、茶櫃、螺鈿短册挾、立山盆、小原盆、蜃氣樓盆、松の菓子鉢、竹彫刻茶筒、四季の富山菓子取、登山灰皿

陶器 越中八尾焼、三助焼、越中瀬戸焼、吳羽焼(楽焼)

玩具 富山人形、獅子頭、(立山開祖)有賴人形、小原踊、獅子舞、劍舞人形、獅子笛、登山人形、田舍風俗人形、越中風俗人形、深雪人形

菓子 月世界、ほたるかま、浮城、雄山銀嶺、地球こま、越中の力餅、立山の力餅、風景煎餅、茶音頭、福德壽、世界の譽、於保多の梅、利久もなか、天露晶、吳羽こんぶ、昆布茶、小原せんべい、アメンボー、福壽飴、小竹、吳羽の梅、立山、磯部の春、古思の里

水產加工品 鱒のすし、鮎の粕漬、鮎のすし、鮎うるか、鮭の燻引、はらはらの粕漬、螢烏賊の瓶詰、烏賊の黑作(以上何れも季節物)

蒲鉾 昆布巻、赤巻、青巻、角蒲鉾、カステラー蒲鉾、やわらか

其他 (立山名產)わさび漬、スヾ筍の罐詰、フカッシユ(清涼飲料水)、シロップ(清涼飲料水)、富山名所手拭

露光量違いの為重複撮影

官公衙諸團體等一覧

絹織物　虫除け、御殿帳

工藝品　木象嵌菓セット、木象嵌茶入、木象嵌木鉢、木象嵌盆、金額、繪葉書額、透彫かま敷、軸箱、短册箱、花台、ペン皿、軸盆、方形盆、新聞盆、ビール盆、菓子盆、セット銘々菓子取、色紙箱、手箱、器局、茶壺、蝶鋼短册挿、立山盆、小原盆、琴氣樓盆、松の葉上鉢、竹彫刻筆筒、四季の富山菓子取、立山灰皿

陶器　越中八尾焼、三助焼、越中瀬戸焼、吳羽焼

玩具　富山人形、獅子頭、獅子舞、剣舞人形、獅子笛、小原踊、獅子舞、剣舞人形、獅子笛、立山人形、田舍風俗人形、越中風俗人形、深雪人形

菓子　月世界、ふるかま、浮城、雄山銘菓、地球こま、越中の力餅、立山の力餅、風雪頭巾、若音頭、福徳壽、世界の雪、於保多の雪、利久もなか、天露饅、吳羽こんぶ、昆布茶、小原せんべい、アメンボー、鶴寿餅、小倉、吳羽の梅、立山、磯部の春、青思の里

水産加工品　鱒のすし、鮎の粕漬、鯉のすし、鮎うるか、鮭の粕漬、ほらばらの粕漬、蕗島賊の粕漬、烏賊の墨作（以上何れも富山）

海鮮　昆布巻、赤巻、青巻、角藻巻、カステラ蒲鉾、やわらか

其他　立山わさび酒、ラッ筒の粕漬、アカヤシ（富山名産）、シロッケ（富山名産）、富山名産手拭

富山商工會議所

富山市總曲輪
電話四一六一・四一六二

議員

（定員三十名）　（・印重要商工業代表者）

職業	住所	氏名	電話番號
菓子問屋	鍛冶町	花森林蔵	二七九〇
米穀移出	（住）上新川郡堀川町	・合資會社本田商店代表者 本田竹次郎	二九一三
蒲鉾製造	（營）大泉町	佐々木權次郎	五〇三一
鑛油	下川原町	奥野定次郎	三〇五三
乾物問屋	東堤町	廣田傳次郎	四六八八
賣藥雜貨	荒町	松崎善平	四九四六
旅館料理	覺中町	藤江清孝	三一三三
保險代理	櫻町	中田辰太郎	三五一五
銀行重役	西堤町	・株式會社十二銀行代表者 奥野吉郎	二九三八
金物、理髮器具	千石町	吉川義之亟	二七七〇
吳服太物卸	總曲輪	大間知喜一郎	五〇二七
	（住）東田地方町		
	（營）衣服町		

同	瀬川朝秀	
	（缺員二名）	
事務局		
理事	富川保太郎	三三九〇
主事	島田榮太郎	四〇二九
書記	宮田俊勝	二五四五
同	田知花潔	
同	並木正治	
同	井上瀧藏	
同	梅澤直義	
書記補	中川勝雄	
同	石田すゞ志	
雇		

富山縣商業報國會富山支部

富山市總曲輪
富山商工會議所

役員

	住所	氏名	電話番號
支部長	富山織物卸商業組合	衣服町	大間知喜一郎	五〇三七
副支部長	富山縣紙卸商業組合	中町	若林元四郎	二一六六
同	富山藥業組合	太田口町	富川保太郎	三三九〇
理事	富山陶器商組合	總曲輪	太田貞一郎	二八三〇
同	富山縣揮發油原油特約店商業組合	東堤町	奥野修一郎	三〇五三
同	富山米穀小賣商業組合	磯部町	永田鐵次郎	四五五〇
同	富山吳服反物小賣商業組合	東四十物町	上田與一郎	三三九四
同	富山荒物商組合	二番町	野村國納	二八六八
同	富山菓子小賣商業組合	東三番町	小西喜一	四六一七
同	富山酒類小賣商業組合	千石町	澁谷芳一	二二三七

組合

商業組合

組合名	地區	組合員數	出資總額	事務所	理事長名
富山足袋メリヤス小賣	富山市一圓	九〇	五、五二〇	西三番町	中條與三次郎
富山縣織物雜貨小賣商業組合聯合會	富山縣一圓	二五	二八、七〇〇	中町	武內宗七
富山吳服太物小賣行商	富山市一圓	四三	四、三五〇	山王町	中田正次郎
富山婦人子供服生地	富山市、高岡市	一九	一、〇〇〇	東堤町	菅田順造
富山縣毛糸	富山縣一圓	一八二	四、六八〇	材木町	高見文太郎
富山吳服太物小賣	富山市一圓	五七	五、〇〇〇	中町	武內宗七
富山織物卸商	同	三五	一〇、〇〇〇	衣服町	大間知喜一郎
富山縣織物卸商業組合聯合會	富山縣一圓	一二	一〇、〇〇〇	同	同
富山洋服小賣	同	九七	二〇、一〇〇	覺中町	守山作次
富山既製洋服小賣	富山市、婦負、上新川中新川、下新川郡	一四	一〇、〇〇〇	西町	水上喜三郎

東岩瀨布帛製品小賣	富東岩瀨町、大廣田村、婦草島村	一六	四、〇〇〇	東岩瀨町	大村良太郎
富山縣地下足袋小賣	富山縣一圓	四三〇	九、〇〇〇	新川原町	荒木金造
富山市地下足袋卸	富山市一圓（滑川町ヲ除ク）	五	一〇、〇〇〇	同	同
富山地區ゴム製被服類小賣	富山市、上新川婦負郡ノ一部	八五	五、〇〇〇	衣服町	大間知喜一郎
富山縣護謨製品卸	富山縣一圓	一四	五、〇〇〇	同	同
富山縣鋼材特約店	同	一五	一〇、五〇〇	砂町	金岡忠治
富山金物小賣	富山市一圓	三八	四、八五〇	總曲輪	林兵次郎
新庄米穀小賣	富山市ノ內舊新庄町、島村、廣田村	八	一〇、〇〇〇	新庄新町	粟山平一
富山自轉車小賣	富山市上新川郡	九九	一〇、三〇〇	總曲輪	佐伯勝次郎
富山縣タイヤチーブ販賣	富山縣一圓	二七	七、五〇〇	常盤町	品川忠藏
富山縣自轉車卸	同	一八	二三、二五〇	西町	河上常次郎
東岩瀨貨物自動車運輸	富山市ノ內舊東岩瀨大廣田村、豐田村	一三	五、四〇〇	東岩瀨町	美輪松次郎
富山縣厚皮仲買	富山縣一圓	四	一〇、〇〇〇	小泉町	加藤正治
富山和洋傘小賣	富山市上新川郡	五三	四、七二〇	總曲輪	大田定太郎
富山セメント小賣	富山市、婦負郡、上新川郡	四四	五、〇〇〇	同	三村金太郎

富山酒類小賣	富山市及上、堀川町	一六三	一〇、〇六〇	新富町	常川巳代二
富山鮮魚小賣	同	一五一	五〇、〇〇〇	中野新町	中田清藏
富山飲食業	同	一四七	六、六二〇	總曲輪	吉田太三郎
富山木炭小賣	富山市、堀川町、新庄町	二三五	五七、四〇〇	櫻町	坂下安次郎
富山化粧品小間物雜貨卸	富山市、婦負、上、中、下新川郡	一九	三、七五〇	鍛冶町	成田松太郎
富山縣賣藥進物用品卸	富山市、下新川郡	二六	四、〇〇〇	總曲輪	太田貞一郎
富山旅館	富山警察署管下	六四	一〇、四五〇	商工會議所內	本多定治
富山縣酒類卸	富山縣一圓	四七	二五、〇〇〇	千石町	笹倉虎次郎
富山簞笥家具小賣	富山市一圓	一七	四、〇〇〇	總曲輪	永井正一
富山板硝子小賣	同	二三	五、〇〇〇	同	同
富山縣ラヂオ電機小賣	富山市、婦負、上新川中新川、下新川郡	四三	一、四三〇	木町	岩田清一
富山石炭卸	同	一八	九、四〇〇	太田口町	大友太治郎
富山縣揮發油重油特約店	富山縣一圓	一三	六、〇〇〇	表町	室崎佐太郎
富山履物小賣	富山市一圓	七三	四、六八〇	新川原町	奥田吉次
富山屑物卸	富山市、婦負、上中、下新川郡	一六	四、一六〇	稻荷町	大澤直和

富山縣度量衡器計量器	富山縣一圓	一六六	六、〇四〇	餌指町	棚田喜作
富山豆腐	富山市、上、堀川山室村	五〇	四、四四〇	總曲輪	谷口本次郎
岩瀨港木材	東岩瀨町	一七	四、八〇〇	東岩瀨町	渡邊竹次郎
富山砂糖小賣	富山市一圓	二〇一	五、一八〇	鍛冶町	花森林藏
富山縣砂糖卸	富山縣一圓	一九	一九、〇〇〇	木町	須田吉清
上新川郡砂糖小賣	上新川郡一圓	一三九	四、八四〇	新庄町	石橋直一
富山藁製品移出	富山縣一圓	二四	四、七〇〇	古鍛冶町	佐藤義則
富山縣藁工品	同	四六一	一六、〇〇〇	總曲輪	田原常次郎
富山縣農藥	富山縣一圓（福光町、中下新川郡ノ一部ヲ除ク）	三五	七、〇〇〇	中野町	多田太三郎
富山縣農機具	同	五三	五、三〇〇	中野新町	蓑島宗平
富山縣養鷄飼料販賣	同	一八	七、四〇〇	室屋町	松木豊次郎
富山縣肥料卸	同	一九	七六、〇〇〇	船頭町	氷見喜三郎
富山米穀小賣	富山市、上、堀川町及山室村	一五七	一六、四七〇	櫻橋通	佐藤俊治
富山縣米穀商業組合聯合會	富山縣一圓	六	七、〇〇〇	山王町	本田竹次郎
岩瀨區域米穀	富山市ノ內舊東岩瀨町外四ケ村	一二	六、四五〇	東岩瀨町	渡邊和三郎

富山縣藥品卸	富山縣一圓	一八	五〇、六〇〇	袋町 金岡又左衛門
富山縣衛生材料卸	同	一四	五、〇〇〇	中野町 福森亀太郎
富山縣石油小賣	同	四三	二、五二〇	木町 室崎佐太郎
富山縣金物小賣商業組合聯合會	富山縣一圓（新湊町ヲ除ク）	八	七、五〇〇	向川原町 小池文藏

工業組合

富山縣清涼飲料水	富山縣一圓	一九	五、〇〇〇	櫻町 翠田辰次郎
富山縣醬油味噌	同	一〇四	八、〇〇〇	千石町 泉田利宗
富山縣飴	同	八	一二、〇〇〇	荒町 井上文次郎
富山縣蒲鉾	富山市上新川郡	三四	三三、七〇〇	下川原町 佐々木櫨次郎
富山菓子	富山市及上、堀川町	一一八	五、九〇〇	東三番町 磯野秀信
上新川郡菓子	上新川郡一圓（堀川町ヲ除ク）	五〇	五、二五〇	新庄町 石橋直一
富山アイスキヤンデー	富山市及上新川、婦負郡	三七	四、三四〇	東田地方 前田幸次郎
富山縣製麵	富山縣一圓	九一	四、〇〇〇	商工會議所內 清水作次郎
富山被服製造	富山市一圓	四六	四、〇〇〇	東四十物町 山口仙太郎

富山縣藥瓶	富山縣一圓	一三	一〇、〇〇〇	立町 扇原亀吉
富山縣鍼力製鑵	同	九	二、〇〇〇	常盤町 武內清平
富山縣賣藥	同	四〇九	九八、三七〇	總曲輪 荒木甚助
富山縣煎藥布袋	同	七	一、〇〇〇	稻荷町 杉森丈之助
富山縣帆布雨具	同	一八	五、〇〇〇	西町 有澤正雄
富山帽子製造	同	一一	五、〇〇〇	太田口町 石田三郎
富山縣護謨	同	七	五、〇〇〇	神通町 中條一
富山鐵工機械	富山市及婦負郡上新川郡	四〇	一〇、〇〇〇	下金屋町 高畠彌吉
富山縣金屬製品工業組合聯合會	富山縣一圓	一四	五、八〇〇	縣廳內 奥田久七郎
富山縣吳東皮革製品	富山市、婦負郡、上新川、中新川、下新川郡	九八	八、〇〇〇	新富町 橋本源次郎
富山縣蹄鐵蹄釘	富山縣一圓	八五	五、〇〇〇	五福 池內佐次
富山市建具	富山市一圓	一三三	四、四八〇	東三番町 水越直治
富山縣製漆	富山縣一圓	七	五、〇〇〇	西三番町 大塲莊二
富山漆器	富山市一圓	八三	三、〇〇〇	同 佐伯治一郎
富山縣農機具	富山縣一圓	二〇	二、〇〇〇	縣農會內 鹿熊久安

富山亞鉛鐵板工	富山市及上新川郡	七三	四、四六〇	牛島新町	草野常義
富山縣電氣機械	富山縣一圓	三〇	一五、〇〇〇	木町	三浦清二
富山木工家具	富山市一圓	六九	四、三四〇	旅籠町	中島菊太郎
富山縣和蠟燭	富山縣一圓	五五	九、三〇〇	鍛冶町	稻波三郎右衛門
富山縣熔接	同	一三	二、〇〇〇	清水町	大野傳作
富山製材	富山市一圓	三四	五、〇〇〇	今町	京田清藏
富山縣頭痛膏製造	富山縣一圓	一三	一、〇〇〇	平吹町	松浦吉次郎
富山疊	富山市及上、堀川町	四七	三、六〇〇	仁右衛門町	桃井善藏
富山縣菜種油	富山縣一圓	四	二〇、〇〇〇	上リ立町	中川善三郎
富山縣竹皮表草履	同	一三	二、〇〇〇	清水町	西田與三吉
富山縣東部絹人絹織物	富山市、上、中、下新川郡射水郡老田村小杉町	一六	二、二〇〇	櫻橋通リ電氣ビル内	碓井榮太郎

産業組合

組合名稱	所在地
富山縣信用購買販賣利用組合聯合會	昭和會館內
富山市信用組合	一番町
富山賣藥信用組合	鍛冶町
賣藥原料購買組合	昭和會館內
神通川漁業信用販賣組合	總曲輪
富山牛乳販賣組合	相生町
吳羽購買販賣利用信用組合	五福
神通川土石販賣利用組合	總曲輪
奧田信用購買販賣利用組合	奧田
富山殖產購買販賣利用組合	立町

酒造組合

富山酒造組合	桃井町
富山縣酒造組合聯合會	桃井町

同業組合

富山縣賣藥同業組合	昭和會館內
同富山支部	新總曲輪
富山米穀同業組合	會議所內
富山縣藥工品同業組合聯合會	古鍛冶町
富山縣中部藥工品同業組合	同

官公署

富山縣廳　新總曲輪
富山市役所　總曲輪
富山聯隊區司令部　五福
富山憲兵分隊　諏訪川原
富山地方裁判所　西田地方町
富山地方裁判所檢事局　同
富山區裁判所　同
富山區裁判所檢事局　同
金澤刑務所富山支所　堀川町
內務省新潟土木出張所常願寺川改修事務所　石金
金澤地方專賣局富山出張所　神通町
富山稅務署　殿町
預金部大阪支部富山出張所　稅務署內

富山郵便局　越前町
同電話分室　荒町
名古屋遞信局工務課富山出張所　越前町
富山鐵道郵便局　驛前
富山警察署　新櫻町
警察練習所　同
鐵道省富山驛　新富町
同富山保線區　同
同富山機關區　同
富山檢車區　同
富山鐵道治療所　同
富山自動車區　同
鐵道省西富山驛　寺町
富山營林署　安野屋町
富山縣電氣局　縣廳內

富山縣度量衡檢定所　總曲輪
富山縣輸出絹織物檢查所　大泉町
富山縣蠶業取締所　縣廳內
富山縣蠶業取締所富山支所　同
富山縣農產物檢查所　安住町
富山縣農產物檢查所富山支所　總曲輪
木炭檢查所富山出張所　新總曲輪
富山縣立農事試驗場　堀川町
富山縣賣藥試驗場　縣廳內
富山縣產業講習所　堀川町
富山財務出張所　縣廳內
富山縣立婦人病院　清水町
日本赤十字社富山支部病院　東田地方町
富山市立神通病院　牛島
富山市商工奬勵館　總曲輪

富山市工業指導所　總曲輪
富山市立圖書館　同
富山職業紹介所　同
富山縣中央商工相談所　大正會館內
富山縣健康保險相談所　總曲輪
富山保險相談所　同
富山簡易保險健康相談所　同
富山放送局

學校

富山藥學專門學校　奧田
富山高等學校　大廣田村
富山縣師範學校　西田地方町
青年學校教員養成所　同
富山縣女子師範學校　堀川町

富山縣立富山中學校　堀川町
富山縣立神通中學校　安野屋町
富山縣立富山商業學校　五福
富山縣立富山工業學校　五福
富山縣立富山高等女學校　堀川町
富山縣立富山夜間中學校　安野屋町
市立富山工業學校　駒見
市立富山高等女學校　堀川町
市立富山藥業學校　同
市立富山商工學校　同
市立富山女子商業學校　新總曲輪
私立大谷高等女學校　磯部町
私立藤園女學校　赤江町
私立富山縣自動車學校　同
私立不二越工科學校　石金
私立海內女子裁縫女學校　南新町

團體

富山縣醫師會　縣廳內
富山市醫師會　總曲輪
富山縣齒科醫師會　同
富山市齒科醫師會　同
富山縣學校醫會　縣廳內
富山縣學校齒科醫會　同
富山縣藥劑師會　總曲輪
富山縣農會　昭和會館內
富山縣水產會　縣廳內
富山、上新川、婦負水產會　總曲輪
社團法人富山縣工業會　縣廳內
同　富山市部會　市役所內

富山縣商工聯盟　縣廳內
商業組合中央會富山縣支部　同
工業組合中央會富山縣支部　同
產業組合中央富山縣支部　同
富山縣對岸貿易拓殖振興會　同
富山縣海外移民協會　同
富山縣海外移住組合　同
富山縣出稼者保護組合　同
富山縣工場協會聯合會　同
同　富山支部　警察署內
富山縣自動車協會　縣廳內
同　富山支部　警察署內
富山縣教育會　總曲輪
富山市教育會　總曲輪校內
育英社　富山支社　手傳町
富山縣米穀協會　縣廳內
富山市出品協會　商工獎勵館
富山縣社會事業協會　縣廳內
富山縣體育協會　同
日本赤十字社富山支部　城址內
愛國婦人會富山縣支部　同
富山縣聯合青年團　縣廳內
富山縣聯合婦女會　同
富山縣教化團體聯合會　同
富山縣神職會　同
富山縣山林會　同
富山縣副業振興會　同
富山縣農產振興會　同
富山縣物產斡旋會　同
富山縣衛生協會　同

大日本武德會富山支部　表町
昭和會館　同
大正會館　城址内

新聞社

北日本新聞社　安住町
北國毎日新聞富山支局　一番町
大阪毎日新聞富山支局　新總曲輪
大阪朝日新聞富山通信部　新櫻町
報知新聞富山支局　西四十物町
讀賣新聞富山支局　總曲輪
新愛知新聞富山支局　新櫻町
名古屋新聞富山支局　新富町

劇場及常設館

劇場　こやま座　上り立町
活動常設館　新富座　餌指町
同　帝國館　總曲輪
同　東洋館　袋町
同　松竹館　中町
同　富山映畫劇場　二番町
同　富山文化劇場　同

旅館

北越館（兼料理）　櫻町　電話番號三二三三
富山ホテル（同）　櫻木町　三二三一
日の丸ホテル　富山驛前　二九七三
富山館　總曲輪　四一六六
富山電氣ビルホテル　櫻橋通り　四一一三
堀佐旅館　西四十物町　二〇六五

竹島屋　中野町　三三五一
八百松支店　總曲輪　二八六三
山村旅館　仁右衛門町　三四一九
舟山館　總曲輪　四一〇一
眞田館　同　三三八六
村井樓（兼料理）　石倉町　二三〇九
稻荷鑛泉（同）　稻荷　三一二三
奥田乃湯（同）　奥田　三五四五

料理店及食堂

八清樓　西伸間町　四一八一
富山ホテル（兼旅館）　櫻木町　三二三一
東洋軒（洋食）　總曲輪　三三一一
奥田屋　櫻木町　三二四一
村井樓（兼旅館）　石倉町　二三〇九
蜷亭　櫻木町　三六八八
有合亭（洋食）　總曲輪　二八五四
金なべ食堂部（和洋支那）　同　四四七四
きらく（和洋食）　同　二三八四
富山電氣ビルホテル食堂（同）　櫻橋通り　四一一三
宮市大丸食堂（同）　西町　四一〇五
山王ビル食堂（同）　中町　三九〇〇

昭和十五年十二月二十五日印刷
昭和十五年十二月三十一日發行

發行所　富山商工會議所
富山市總曲輪四五五番地ノ一

發行兼編輯者　島田榮太郎
富山市安野屋町四六六

印刷者　高見清平
富山市袋町九番地

印刷所　高見印刷所
富山市袋町九番地

終